

1 9 9 7

授業概要

【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

目次(保育科)

教養教育科目(1年)

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
西洋文学	6
近代日本の歴史	7
西洋史概説	8
東洋美術	9
演劇論	11
現代社会論	12
現代家族論	13
日本国憲法	14
市民生活と法	15
政治学入門	16
生活の経済学	17
心理学入門	18
マスコミュニケーション概論	19
現代社会と女性	20
自然科学史	21
生命の科学	22
生物と環境	23
生活の科学	24
健康の生理学	25
宇宙と地球	26
情報処理入門	27
総合科目人間	28
総合英語 I	29
選択語学 I 海外語学研修	33
スポーツA(エアロビクス)	34
スポーツA(テニス)	35
スポーツA(バドミントン・卓球)	36
スポーツA(ハレーボール)	37
スポーツB(スキー)	38
健康科学	39
スポーツ科学	40

専門教育科目(1年)

社会福祉概論	43
児童福祉	44
保育原理 I	45
教育原理	47
発達心理学	49
教育心理学	50
小児保健 I	51
小児栄養	52
保育内容総論	53
健康(保健行動)	54
言葉 I(言語行動)	55
乳児保育 I	56

児童文化	57
音楽Ⅰ(基礎理論)	58
音楽Ⅰ(ピアノ)	59
音楽Ⅰ(声楽)	60
図画工作Ⅰ	61
ゼミナールⅠ	62
幼稚園実習	63
実習指導	64
保育所実習Ⅰ	65

教養教育科目(2年)

総合科目人間	69
--------	----

専門教育科目(2年)

社会福祉方法論	73
保育原理Ⅱ	75
養護原理Ⅰ	76
養護原理Ⅱ	77
臨床心理学	78
小児保健Ⅱ	79
小児保健実習	80
小児栄養実習	82
精神保健	84
教育課程総論	85
人間関係(社会行動)	86
環境Ⅰ(自然認識)	87
表現Ⅰ(文化行動a)	88
表現Ⅰ(文化行動b)	89
環境Ⅱ	91
言葉Ⅱ	93
表現Ⅱ(ダンス)	94
表現Ⅱ(デザイン)	95
表現Ⅱ(子どもの音楽)	96
保育計画法	97
乳児保育Ⅱ	99
養護内容	100
障害児保育	101
家庭管理	102
音楽Ⅰ(ピアノ)	103
音楽Ⅰ(声楽)	104
音楽Ⅱ(ピアノ)	105
音楽Ⅱ(うた)	106
音楽Ⅱ(ギター)	107
図画工作Ⅱ	108
体育Ⅰ	109
体育Ⅱ	110
ゼミナールⅡ	111
幼稚園実習	130
実習指導	131
保育所実習Ⅱ	132
施設実習Ⅰ	133
施設実習Ⅱ	134

教養教育科目（1年）

【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 文学作品に描かれた「世界」とは何なのか。それは先ず（少なくとも）、我々が生きているこの「現実」とは別の、「もう一つの世界」だろう。本講の目標は、この「もう一つの世界」としての「文学」(一般的には「芸術」)の構造を探りつつ、同時に、それとの関係の中で見えてくる「現実世界」の意味をも考えることにある。	
【テキスト・参考書】 教科書は用いない。講義の中で指定する若干の小説を読むことが課題になる。	
授 業 計 画	
<p>○ 例えば「小説」に描かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソパチ」だ。しかし我々は、なぜワザワザこんな「作り事」を生み出し、求めて来たのか。なぜ、そんなウソパチに感動したり、「生き方が変わってしまった」などという驚くべきことがおこるのか、という事を考えたい。</p> <p>これを考えることは、「文学」のみならず、「芸術」一般を考える出発点にもなろうし、ひるがえって、(我々が生きている)この「現実」なるものの意味を考えることでもあろう(「現実」はなぜ「フィクションではない」などと言えるのか)。</p> <p>○ 講義は概ね、以下の三点をめぐって順次展開するはずである。</p> <p>① [フィクション論] ……「フィクション」とは何か、それと「現実」は、いかなる関係にあるか、という問題を軸に考える。</p> <p>② [文学作品における「方法」について] ……小説を中心に、「もう一つの世界」がどのような構造を持っているかを考える。</p> <p>③ [日常性と非日常性] ……ひるがえって、我々が「生きている」(と思っている)この「世界」のリアリティー(あるいは限界)について考える。</p> <p>○ 若干の課題作品(講義の中で指示する)を読むのは当然ながら、そのほかにも、講義でふれる作品を意欲的に読んで行くこと。</p> <p>「芸術と現実」に関する自分なりの問題意識を、可能な限り鋭く研ぎ澄ますこと。</p> <p>この二つの前提があれば、講義は決して「難解」ではない。</p>	
【評価方法】 筆記試験(自筆ノート参照可)。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する小テスト(1～2回)も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。	

【授業科目名】 王朝文学の世界

【担当者】 久保木寿子

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 “受験文法”のために日本の古典作品の多くが、横にちょん切られたままで終わってしまう。が、優れた古典は、作品としての主張をもっており、解説をこそ待っている。おもしろさに気づくことが第一の目標である。次いで、作品の主張の意味を時代に即して理解することを目指したい。

【テキスト・参考書】 岩波文庫『竹取物語』・配布プリント
参考書は最初の授業で紹介する。

授 業 計 画

平安時代初中期にかけて、口伝によるカタリが物語として生成し、主題性を明確にしていく。竹取物語と源氏物語に焦点を合わせ、生成初期から成熟への過程を追う。

- 1、さまざまな竹取の物語
- 2、カタリの話型^{パターン}と、話型^{パターン}による物語
- 3、かぐや姫はなぜ天界に帰るのか
- 4、物語の中の異界(1)――『古事記』の場合
- 5、物語の中の異界(2)――『源氏物語』明石へ
- 6、紫上の命日
- 7、「形代^{かたしろ}の物語」対「“おこ”の物語」
- 8、地上をさまよう「浮舟」
- 9、王朝物語の主題^{テーマ}
- 10、なぜこのような主題^{テーマ}が取り上げられるのか

おおよそ以上のような計画で進めたい。

【評価方法】 定期試験時レポート、及び授業時の「マトメモ」による。

【授業科目名】 話し言葉の文芸

【担当者】 東喜望

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 将来に資するために、口承文芸をとりあげます。
初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。
大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。

【テキスト・参考書】 1. 講義資料を配布する。
2. 参考書・岩波文庫『日本の昔はな』I・II・III（『こぶし爺』他・『桃太郎』他・『一寸法師』他）
関敬吾編

授 業 計 画

講義はおよそ以下の項目にそって行う。

1. 自然と文化
2. ことばと文化
3. 文芸の起源
4. 口承文芸
5. 昔話の形態
6. 昔話のルーツ（浦島・桃太郎・竹取翁など）

【評価方法】 定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 西洋文学

【担当者】 衣川清子

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。

【テキスト・参考書】

テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。

授 業 計 画

この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作品の内容と特徴、作品の舞台と背景、作品の受容、作者の横顔などを紹介し、一種の文学案内にしたいと思っています。

毎回の授業で原則として一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、エミリー・ブロンテ『嵐が丘』、ルーシー・モード・モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、イサベル・アジェンデ『精霊たちの家』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』などです（変更する場合があります）。また、サラ・パレツキーとパトリシア・コーンウェルという二人のミステリー作家も取り上げます。音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読んでみたいと思っている学生の聴講を期待します。

授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。

【評価方法】

平常点とレポートの総合評価とします。授業の中で取り上げた作品またはその他の指定する作品について、「書評」（「感想文」ではなく）の形で期末レポートを書いていただきます。書き方については授業の中で説明します。

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史を題材にしながら、時間の流れの中で移り変わり、変化をとげていく社会を構造的にとらえていく手法について話しをしたい。どのような視点から歴史を見つめるかといったことからまず検討し、それを実践したとき何が見えてくるかを明らかにしてみる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし</p> <p>参考文献：多数あるので、講義中に逐次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>これまでの歴史の学習の中ではあまり体験したことのない、ローアングルからの歴史認識ということについてまず説明をしてみたい。歴史を支え、突き動かしている民衆に視座を据えたこのアプローチからは、近年、多くの研究成果が生み出されているが、実は、明治の初期に、すでにこのような視角から当時の民衆生活を克明に描き、そういった人々をとりまく社会の構造について分析したルポや研究の書があった。まず、これらを導きの糸にして、なぜそのような視角が成立し、そのような作品があらわれることになったのかを、当時の時代状況を検討することで明らかにしようと思う。歴史的な事件や人物などの細かい知識は不要。ダイナミックに近代の全体像をつかみ、その中でいろいろな形で歴史との関わりをもった人々に細心の注意を払い、その生き様をみつめる目を養うことが重要。以下、次のようなテーマを設定して講義を進めたい（但し、順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学ぶことについて－まずは固定イメージの転換から ・ローアングルからの歴史とは ・日本近代の見取り図－近代史像のダイナミズム ・明治という時代－人々を取り巻く国家の枠組みは ・底辺民衆を見つめる目－潜入ルポルタージュの先駆、松原岩五郎 ・『日本之下層社会』が問い掛けたもの－近代化の実相 ・成金時代に書かれた『貧乏物語』－足腰の弱い経済発展 ・恐慌と戦争の1930年代－民衆が求めたものは 	
<p>【評価方法】</p> <p>最後にレポートを課す</p> <p>講義中に小レポートの提出を求めることがある</p>	

【授業科目名】 西洋史概説

【担当者】 川鍋光弘

【開講期】 1 年

後期

【授業目標】

- わたくしたちにとって「西洋」とは何であるのか
- 「西洋」をつくったものは何であるのか
- 「西洋」はどこへ行くのか

【テキスト・参考書】

特になし。その都度資料配布の予定

授 業 計 画

「西洋」近代の生み出した工業化社会・産業社会は、人口に豊か
な生活をもたらした反面、世界の多くの地域に大きな被害をあたえ、
21世紀を迎える今日に於ても、世界はその苦しみから抜け出しきれ
ていない。その上今や「西洋」内部においても格差の問題が激化して
きている。ここでは、「西洋」近現代の歴史を他の地域との関連の
なかで学んでいきたい。

- ① わたくしたちは「西洋」をどうみているか
- ② 日本人の「西洋」観
- ③ 西ヨーロッパと東ヨーロッパの成立と発展
- ④ 西ヨーロッパの世界進出と絶対王政
- ⑤ 市民革命・産業革命のもたらしたもの
- ⑥ 近代社会とナショナリズム
- ⑦ 帝国主義と社会主義
- ⑧ フランシスムと人民戦線
- ⑨ 東西冷戦とヨーロッパ統合

VTRや資料を使い、学生自身が歴史的事実をどう考えたかを重視したい。尚、時
間の関係で全てのテーマを扱えるとはかぎらない。

【評価方法】

平常点・適宜課する感想文・レポート等の提出状況・出席状況

【授業科目名】 東洋美術

【担当者】 神道明子

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

中国美術への理解を深めることにより、東洋の中の中国美術、ひいては東洋の中の日本美術という視点を持つことに努める。また美術作品を通して、背景となる歴史・政治・文化の流れを考える力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト : 授業時に資料を配布する。

参考書 : 『中国美術史』 マイケル・サリバン著 新潮社

『中国美術史』 小杉一雄著 南雲堂 他

授 業 計 画

古代中国の美術は日本の美術に大きな影響を与えた。特に我が国の仏教美術は、中国・朝鮮の美術を理解することなしには語るができない。しかしその中国の仏教美術もまたインドからの外来文化である。これらのことを念頭におき、前半は中国の何千年という歴史を支えた仏教以前の美術、主として都市や墳墓などの考古学的発掘の成果にみる美術を中心に話を進める。

後半はインドから西域、或いは南方のルートを通して中国に伝わった仏教美術が、どのように展開してゆくのかを現在中国各地に残る石窟寺院の仏教彫刻を中心に、図やスライドを使って講義を進めていくことにする。博物館、美術館などの見学もできるだけ行いたい。

- (1) 彩陶・黒陶から近世の陶磁器まで
- (2) 殷・周・春秋戦国時代の美術－青銅器文化
- (3) 秦始皇帝と兵馬俑坑
- (4) 漢の明器と画像石－墳墓の美術
- (5) インドの仏教美術
- (6) 中国への仏教伝来と初期の仏像
- (7) 石窟寺院の仏教美術－敦煌・雲崗・竜門などの石窟美術
- (8) 中国美術が我が国に与えた影響

【評価方法】

平常点、レポート 他

【授業科目名】 東洋美術

【担当者】 山田磯夫

【開講期】 1年 前期

【授業目標】

東洋といっても範囲が広く、各地域では相異なる文化圏に属し、異なった美術様式をもっているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこでこの講座では、アジアの諸地域にわたって強く影響を与えた仏教に焦点をあて、極東の国・日本で生み出された仏教美術、特に仏教彫刻について概観する。

【テキスト・参考書】

参考書 : 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社
久野 健 『仏像の歴史』 山川出版社

授 業 計 画

日本の仏教美術は近世以前の日本美術の形成・発展において常にその母胎となってきた。この講座では、まず仏教美術理解の基本である仏像の見方について学び、古代から中世に至る仏像彫刻を取り上げ、彫刻様式の流れの理解につとめる。スライド使用。

以下のテーマに沿って進める。

- ①はじめにー東洋の文化圏とシルクロード
- ②仏教美術についてー仏像の見方(1)
- ③仏教美術についてー仏像の見方(2)
- ④飛鳥時代の彫刻Ⅰー仏教伝来と最初の仏像
- ⑤飛鳥時代の彫刻Ⅱー法隆寺の仏像と止利仏師
- ⑥白鳳時代の彫刻ー旧山田寺の仏頭
- ⑦天平時代の彫刻Ⅰー薬師寺の仏像
- ⑧天平時代の彫刻Ⅱー東大寺の仏像
- ⑨平安時代の彫刻Ⅰー木彫の誕生と一木造
- ⑩平安時代の彫刻Ⅱー寄木造と仏師定朝
- ⑪鎌倉時代の彫刻ー南都復興と慶派仏師
- ⑫講義のまとめ

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常点

左記3項による総合評価

【授業科目名】 現代社会論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えるとき、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する。</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 「人間が生きる」ということ</p> <p>2. 人間の行動・行為</p> <p>3. 「人間らしく」生きることと欲求</p> <p>4. 人間を特徴づけるパーソナリティ</p> <p>5. 行動様式としての文化</p> <p>6. 集団生活のあり様</p> <p>7. 現代日本社会の諸相</p>	<p>－ 社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。</p> <p>－ 人間の生活＝生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。</p> <p>－ われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。</p> <p>－ 人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。</p> <p>－ とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。</p> <p>－ 人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。</p> <p>－ 現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテスト</p>	

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉—家族問題への対応』 培風館</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. 人間にとって家族とは何か</p> <p>2. 家族のはたらき</p> <p>3. 家族のタイプ</p> <p>4. 家族のしくみ</p> <p>5. 家族と福祉</p> <p>6. まとめ</p>	<p>— 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。</p> <p>— 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一樣に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。</p> <p>— 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。</p> <p>— 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。</p> <p>— 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。 (1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉</p> <p>— 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>ペーパーテストを期末に実施</p>	

【授業科目名】 日本国憲法

【担当者】 園田 康博

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

憲法は国家統治の組織・作用の基本法であり、国家並びに国民が準拠すべき最も重要な法である。
本講では、その憲法を網羅的かつ体系的に解説し、憲法知識に加えて、憲法感覚の伝達を目指す。
憲法を通じて法的なものの考え方を体得できるように期待したい。

【テキスト・参考書】

テキスト、参考書ともに開講時に指示する。

授 業 計 画

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 講義のガイダンス | 講義の内容および履修上の注意 |
| 2. 憲法学の基本的な概念 I | 憲法の意味、国家の定義と憲法 |
| 3. 憲法学の基本的な概念 II | 形式と性質、憲法規範の特質 |
| 4. 日本国憲法の基本原理 I | 三大原理、権力分立 |
| 5. 日本国憲法の基本原理 II | 法治主義、法の支配、公共の福祉、権利濫用の禁止 |
| 6. 憲法保障 | 組織的保障と未組織的保障 |
| 7. 憲法と国際法 | 憲法と国際法の優劣、二元論と一元論 |
| 8. 人権享受の主体適格性 | 天皇・皇族、外国人 |
| 9. 人権享受の主体適格性 | 法人、公務員、在監者、故人 |
| 10. 憲法の第三者効力 | 私人間における人権の適用可能性 |
| 11. 部分社会論 | 部分社会論の意味、根拠、効果、問題点 |
| 12. 人権の国際的保障 | 背景、本質、現実、制度の現状 |
| 13. 消極的権利 I | 精神的自由権の一般的特質、思想・良心の自由 |
| 14. 消極的権利 II | 信教の自由、集会・結社の自由 |
| 15. 消極的権利 III | 表現の自由、学問の自由 |
| 16. 消極的権利 IV | 人身的自由 |
| 17. 消極的権利 V | 経済的自由（財産権、職業選択の自由） |
| 18. 積極的権利 I | 受益権（請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権） |
| 19. 積極的権利 II | 社会権（生存権、労働基本権、教育を受ける権利） |
| 20. 複合的権利 I | 幸福追求権、平等権 |
| 21. 複合的権利 II | 新しい人権（環境権、知る権利、プライバシー） |
| 22. 能動的権利 | 参政権の内容、本質、公務就任権 |
| 23. 三種の違憲審査基準 | 厳格審査、厳格な合理性の審査、緩やかな審査 |
| 24. 天皇 | 本質、権限、象徴天皇制について |
| 25. 国防 | 9条の基本構造と解釈 |
| 26. 国会の地位と構造 | 国権の最高機関、唯一の立法機関 |
| 27. 内閣と行政権 | 議院内閣制と首長制、内閣の組織・権能・責任 |
| 28. 裁判所と司法権 | 司法権の概念、独立 |
| 29. 財政、地方自治 | 財政民主主義、租税法律主義、地方自治の本旨 |
| 30. 総括 | まとめ |

【評価方法】

筆記試験・出席率の総合評価

【授業科目名】 市民生活と法

【担当者】 武藤健一

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 法という視点から、社会そして家庭において女性がどのように位置づけられているのかを理解すること。

【テキスト・参考書】 未定ですが、金城清子著「法女性学」(1991年 日本評論社)、角田由紀子著「女性の法律学」(1994年 有斐閣)をあげておきます。

授 業 計 画

日本の現行法制上、どのように女性が位置づけられているかを、1° 人権(憲法)、2° 家族法(戸籍)、3° 雇用(労働法)、4° セクシュアリティ(性)という柱をたて、検討する予定です。

【評価方法】 学年末試験に、出席を加味して行いたいと考えています。

【授業科目名】 政治学入門

【担当者】 加地直紀

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

政治とは、つまるところ権力闘争であることを、国内外の実例をとおして理解する。

【テキスト・参考書】

中村勝範『自由論 第二巻』(慶應義塾大学出版会、1996年)

授 業 計 画

I. 多面的なものの見方について
核兵器、戦争、汚職、不倫=悪なのか

II. 巧利主義について
善悪ではなく、損得という尺度

III. 政治の定義
政治：欲望の調整→権力闘争

IV 日本政治における権力闘争

V 国際政治における権力闘争

※ 受講中の私語・飲食は厳禁 (違反者は退室のこと)

【評価方法】 ① 平常点 (ただし出席はとりません)

② レポート

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山哲朗
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 <p>現代日本経済を「生活の豊かさ」の視点より取り上げ、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>特に指定しない。講義の中で適宜参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域—— 2 戦後日本経済の展開過程——時期区分—— 3 戦後日本の生活の変容 4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理—— 5 「生活の豊かさ」と高齢社会 6 「生活の豊かさ」と環境問題 7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター—— 8 生活福祉と社会政策 	
【評価方法】 <p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 心理学の基本的なテーマをとりあげます。 すなわち、性格論、対人関係を中心に授業を行います。	
【テキスト・参考書】 テキスト：なし 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 重野純「キーワードコレクション心理学」、金子隆芳「心理学フロンティア」、 大山正「心理学への招待」、北尾倫彦「心理学への招待」、 岡本栄一「心理学ティータイム」、藤本忠明「ワークショップ心理学」他	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1.心理学のなりたち： 心理学のながれについて 2.ものの見方と人間の行動について： 行動と知覚，認知との関係を考える。 3.人間の行動と条件づけ： 行動論について 4.幼児期と性格形成 VTRを利用します。 5.意識と無意識：精神分析の人間理解(1)： Freudの思想，精神分析概説 6 同 (2)： libidoの役割とlibidoの発達 7 同 (3)： 自我の防衛 8 同 (4)： 物語と夢の分析 9 性格について(1) 基本的な性格論 10 性格について(2) 性格理解の試み 11.社会・集団と人間行動(1) 集団とリーダーの役割について(1) 12.パニックの心理 VTR利用 13.社会・集団と人間行動(2) 役割理論による分析 	
【評価方法】 平常点，中間試験，レポート	

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論

【担当者】 瀬木博道

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 現代はマスコミ支配の時代である。この社会で大量の情報はマスコミから受けて生活している。この状況を踏まえて、マスコミジャーナリズムの本質を考え、新聞だけでなくマスコミ全般の問題に踏み込んでみたい。「知る権利」の問題に重点を置く。

【テキスト・参考書】

テキスト： 瀬木博道ほか著「コミュニケーションするPR」電通

参考書： 同上 「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所

授 業 計 画

- マスコミとは何か 現状 (上)
- 同 上 (下)
- ジャーナリズムとは
- 言論の自由と知る権利 (上)
- 同 上 (下)
- 図書館の自由と知る権利
- 広告概論 (上)
- 同 上 (下)
- 広報概論 (上)
- 同 上 (下)
- マスコミのよす —— 新聞を中心に

【評価方法】

受講態度 } ならびに 筆記試験による評価
遅欠状況 }

【授業科目名】 現代社会と女性

【担当者】 富永静枝

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましいあり方や生き方を探る。

【テキスト・参考書】

参考書:適宜授業中に紹介する。

授 業 計 画

「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が見直され、働く女性が増大してる中で、女性をめぐる社会的状況は大きく変化しています。しかし一方では、不況下における女子学生の厳しい就職差別などに見られるように、女性が社会に出てから一人の人間として、自立して主体的に生きることは相変わらず困難な状況にあります。そこで変動する現代社会の諸問題、とりわけ家族、労働、教育、福祉の諸問題をジェンダーの視点から考えてみることによって、その問題状況を浮かび上がらせ、これからの望ましい男女のあり方や生き方を考えてみたい。

内容は

- (1)女性のライフサイクルの変化と性別役割分業、
- (2)現代社会と女性労働
- (3)高齢(化)社会と女性・家族・家庭
- (4)男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き

を柱とし、それぞれ2~3回講義する予定であるが、学生の問題関心の寄せ方によって、変更することもある。

授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。また身近な問題なども取り上げることによって、それらの諸問題が学生自身の現在と将来における自分自身の問題でもあることを認識できるようにし、問題解決への意欲を持てるようにしたいと考えています。(なおこの科目は保育科と心理学科の学生を対象とした科目です。教養科の学生は専門科目の現代女性論でさらに詳しく論ずる予定であるので教養科の学生はそちらを選択してください。)

【評価方法】

レポートその他。

【授業科目】 自然科学史	【担当者】 柳下登
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 自然科学を学ぶことは、色々な公式、記号、概念等を覚えることだと思い、それが理科嫌いの原因になっている。科学は暗記のためのものではない。人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学することは真善美を追求する文化系の諸活動と同根である。科学の歴史は人間の歴史である。ここでは科学を語るためではなく、発想を逆転し、人間を語るために科学の足跡を追うことにした。	
【テキスト・参考書】 テキスト：自然科学入門（甲斐義幸、二宮勘輔） 参考書：科学思想のあゆみ（Ch. サンガー）岩波書店、物理学と何だろうか（朝永振一郎）岩波新書、科学の考え方・学び方（池内 了）岩波ジュニア新書 他	
授 業 計 画	
この講義では講義目標似合わせて、「サルから人間への道で得たこと」「物質」「宇宙」「生命」の主要テーマの解明の過程をを考察する。細目は講義の全体増を理解するためのキーワードである。	
<p>1) 科学を成立させた人間の条件</p> <p>a. 森の生活者サル類がヒトをつくる b. 「木から落ちたサル」のサルばなれへの道 c. 四本足から二本足へ d. 道具が人間をつくる e. 脳とその入れ物（頭）の変化 f. 生きること（生活）が自然についての理解を深める g. 道具で道具をつくる h. えものの採集から狩人へ i. 定住と栽培、牧畜の誕生 j. 技術が先か科学が先か</p> <p>2) 科学の芽生え</p> <p>a. ナイル川のもたらしたもの：暦、幾何学 b. ピラミッドのもたらしたもの：数学 c. ギリシアの自然学の確立 d. ローマ、アラビア、中世の科学の特徴</p> <p>3) 物質の根源を求めて</p> <p>a. タレスの「アルケー」 b. デモクリトスの「アトム」 c. アリストテレスの「四元素説」 d. デカルトの「粒子説」 e. ドルトンの原子論 f. メンデレーフの原子概念の深化 g. 原子構造と原子核の世界</p> <p>4) 宇宙の動きと姿を求めて</p> <p>a. 古代の宇宙観 b. コペルニクスの地動説 c. ガリレイの「天文学対話」と「新科学対話」 d. ニュートンは地上の法則を天界へ導入した e. 太陽系の起源に関するカント、ラプラスの星雲説 f. 星の一生と原子核反応宇宙は膨張する</p> <p>5) 生命の源と進化</p> <p>a. 古代における生命の「母なる大地」の考え b. アリストテレス生命の完成への目的 c. ヘルモントの自然発生説 vs パスツールの実験 d. 細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ e. ラマルクの進化論：生物は段々と複雑になった f. ダーウインの進化論：生物は共通の祖先から g. オパーリンの「自然発生説」の復活 h. メンデルの遺伝の因子説 i. ワトソン・クリックのDNAの2重らせん構造の発見 j. バイオテクノロジー</p> <p>6) まとめ：a. 今日の自然像 b. わたしの研究史：ピートン物語</p> <p>実 験：火をおこしてみよう。かまぼこの板と アジサイの枝（2×20cm）乾かしておく。</p>	
【評価方法】 定期試験にかわる課題レポート。その他、自発的なテーマ設定の提出物にも評価に加える。	

【授業科目名】 生命の科学

【担当者】 吉川研二

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 地球上には莫大な数の生物たちが生活している。この生物たちの命を育むのは長い進化の結果作られた地球の大気、水、土壌環境であり、また、その環境は生物自身によって維持されている。私たちヒトも生物との共生によって生きていけるのであって、地球上の多様な生物一つ一つの命はかけがえのないものである。この生物の生命とは何か？一般に難しいといわれる生命科学だが、人間が生きていく上で必修の基礎教養として関心を持ってほしい。

【テキスト・参考書】

プリント－複数の文献・ビデオなどを資料とする。

授 業 計 画

地球上に生命が誕生してから35億年、多種多様な生物が登場し、繁栄し、消滅してきました。しかしながら、生命の設計図である遺伝子、すなわちDNAは生命の誕生から現在まで脈々と伝えられてきました。顕微鏡でしか見ることのできない微生物から巨大な生物であるシロナガスクジラやセコイアまで、その基本は同じです。基本は同じでも、生物を比べて見るとその形、生態、行動など一つとして同じものはありません。私たちが今見ている生物はそれぞれが進化し、生きてきた姿なのです。何故こんなにも多様な生物が存在するのでしょうか。

エイズ、アレルギー、遺伝病、人口や資源、環境など生物学に関わる問題は山積みしています。生物学はまた日進月歩の学問です。農学、医学、薬学、栄養学、遺伝子工学、心理学など応用分野も多方面にわたっています。授業ではいくつかの生物学の話題を拾いながら、生命について、生命現象の謎について紹介していきます。

- ・ 生きているということ
- ・ 生命の起源
- ・ DNA
- ・ 種とは何か
- ・ 性の誕生
- ・ 病気と闘う
- ・ 環境問題
- ・ 生命の共生
- ・ 生命倫理・環境倫理

【評価方法】 レポート＋筆記試験

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】 小作明則
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】 『ヒト』を含めた地球型生物とその生息環境である地球との科学的かつ歴史的な総合認識を持つことでこれからの地球環境について個人個人の問題意識を持てるようにする。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>全ての地球上の生物は意識するしないは別として必ず環境という枠の中で生れ、生活し、滅んでいきます。今日、「ヒト」の経済活動のために地球上のあらゆる環境は地球誕生以来50億年の間で最も激しく、そして経験したことのなかったで激変する時代に直面しています。このような状況の中で「生物と環境」の講義ではまず地球上で生活している生物がその生物を取り巻く環境とどのような関連をもって生活しているかについて概説し、次に生物を取り巻く環境の変化とその生物の対応について具体的かつ生態学的見地からの理解を深めます。そして最終的にヒトという動物の存在が地球環境にどのような歴史的かつ経済的背景をもって影響を及ぼしてきたかについて学んでもらいたいと考えています。以上述べたことは現在大きな問題と成っている種々の「地球環境問題」を理解し、それにたいして我々がどのような問題意識をもち、さらに具体的対応策を個人のレベルで立てていくことができるかを考える際の手引きになるよう構成するつもりです。</p>	
<p>講義の中ではできるだけ実物の生き物に接する機会を作り、疑似体験ではない、直接体験の機会を多く持ちたいと思っています。</p>	
<p>【評価方法】 筆記試験</p>	

【授業科目名】 生活の科学

【担当者】 滝沢靖臣

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。

【テキスト・参考書】

授業の中で項目ごとに紹介する。

授 業 計 画

物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。

1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。
2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。
3. 原子と分子と私たちの生活。
4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。
5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。
6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。
7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。
8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。
9. アルコールの正体は何であろうか。
10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。
11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。
12. 物質科学とエネルギー
13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。
14. 石油資源と石油化学を考える。
15. 科学は地球を救えるか。

【評価方法】

試験、レポート、出欠により評価する。

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】 駒林隆夫
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>健康には運動、休養および栄養の三大要因が関係する。三大要因を考える際、我々の生体の仕組みを理解することは大変重要なことである。本授業では一部基本的な解剖を加えながら、生体の機能について講義を進める。この中で、生理学の知識を深め、健康に関して積極的に考える姿勢を養いたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>カラースケッチ生理学（永田 豊，坪井 實 監訳，廣川書店）</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造と機能 細胞膜の構造，膜輸送，エネルギーの産生. 2. 神経と筋肉 神経インパルスの発生と伝導，骨格筋の構造，クロスブリッジと滑走フィラメント，筋の興奮－収縮連関，筋の張力発生. 3. 心臓血管系 自律神経系による心臓血管系の調節，心臓の活動電位の発生と心電図，血圧の制御. 4. 呼吸系 ヘモグロビンの機能，酸素と炭酸ガスの運搬，呼吸の神経的・化学的調節. 5. 腎臓機能 尿の生成，酸－塩基平衡の腎性調節，細胞外液量の調節，腎のその他の機能. 6. 消化器系 消化器系の構成と機能，消化活動のホルモン性調節，消化の神経性調節，消化障害と疾患. 7. 神経系 神経系の機能的構成，脳の構造と一般機能，感覚器の構成と機能，痛みの生理学，視床下部の構成と機能. 8. 内分泌系 内分泌系の構成と機能，ホルモン作用の細胞機構，ホルモン調節の機構. 9. 代謝生理 血糖の調節，肥満と生活習慣病，体温の調節. 10. 生殖 生殖器系の構成と機能，胎児の循環，母性の生理特性. 	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験 80%，出席率 20%</p>	

【授業科目名】 宇宙と地球

【担当者】 杉村新

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

皆さん知りたがり屋になってください。自然を知るのは、人生の基本です。そして、成るほどなあとと思うようになってください。それは自然を理解していく一步一步なのです。皆さんがそういう一步一步を感じることができれば、担当者の幸せであり目標でもあります。

【テキスト・参考書】

テキスト：「新訂地学図解」（第一学習社）

参考書：（指定図書）「図解地学IA」（第一学習社）

授 業 計 画

最初の時間にアンケートをします。そのためにテキストが必要です。このアンケートの結果に基づいて、担当者の側で授業内容を“選択”します。第2回目の時間以後もテキストは必ず持ってくること。

講義中のおしゃべり厳禁。

毎回スライドを映しながら講義します。

授業は必ずしもテキストの順序（下記）通りではありません。順序未定。

テキストの内容：

地球の構造と働き，地震，火成岩と火山，地表の変化，地殻の変動，プレートの運動，古生物，資源・環境，大気の動き，海，太陽系，地球の運動，恒星と銀河。
こんなに沢山はできませんから“選択”するのです。

【評価方法】

持ち込み不可の試験で成績をつけます。自然科学は暗記物ではないから、テキストのまる暗記はダメ。内容の理解の程度を判断して採点します。

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介
【開講期】 (1年前期)	
<p>【授業目標】 コンピュータが身近に利用できる環境になり、さまざまな「情報」をコンピュータに「記憶」させ、必要に応じて「利用」し、ネットワークを介して「共有」する時代になってきました。「情報」というともものものしいですが、身の回りの「文書」や「写真」、あるいは「音」や「絵」といった「題材」を整理したものです。身の回りの「情報」を上手に管理し、効率良く引き出す「道具」としてコンピュータを利用する基礎技術と概念を身につけます。</p>	
<p>【参考書】 「できるWord95」、田中 亘著、インプレス社 「できるExcel95」、コアダンプ&インプレス編集部編、インプレス社</p>	
授 業 計 画	
<p>実際にコンピュータを操作して「情報処理」に関連する諸概念を習得します。そのためにはキーボードが楽に使えるようになる必要があります。すでにキーボードを使える人もいますが、初めはキーボードやマウスといった入力装置の使い方からスタートします。キーボードとマウスの練習を兼ねて、ネットワーク上のメールの利用、ホームページの閲覧、検索、作成などを行います。次に市販されている「ソフトウェア」を使って、どのように「情報」を「ファイル」として保存できるのか、その「情報」をどのように「検索」し、どのように「再利用」、「再加工」できるのかを理解します。最後に、ファイルに保存された各種の情報をどのように連携して利用できるかを理解します。</p>	
<p>以下の項目を予定しています。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの仕組み 2. プログラムの起動 3. キーボードに慣れる 4. ネットワークの利用 5. ワードプロソフトを使う 6. ワードプロソフトを使う 7. ワードプロソフトを使う 8. ワードプロソフトを使う 9. 表計算ソフトを使う 10. 表計算ソフトを使う 11. 表計算ソフトを使う 12. 色々なデータを扱う 13. 各種のソフトの連携 	<p>ハードウェアとソフトウェア、ネットワーク オペレーティングシステム、プログラム アルファベット、かな、数字 インターネットメール、WWW 起動と終了、各種文字の入力、単語の登録 ファイル <保存、読み込み> 文書の装飾(加工1) <フォント、書式、図の配置> 文書の装飾(加工2) <表、罫線、図形の作成> 簡単な計算処理 <合計、平均、再計算> 編集機能 <表示形式、罫線、書式> 結果の表示 <グラフの作成> 写真、描画、音、文字 文書に各種のデータを張り込む、</p>
<p>【評価方法】 授業中の操作と課題作成</p>	

【授業科目名】 総合科目 人間	【担当者】 黒田・平賀
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
【授業目標】 <p>本科目は副題を「人権と平和」とする。本学は建学以来ヒューマンイズムの精神をもってその教育理念としてきた。ヒューマンイズムとは何かを問い、人間らしく生きる条件として人権の保障と平和の達成にかかわる諸問題を考えることにする。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>テキスト：特になし 参考文献：多数あるので、講義の中で逐次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>[前期：担当 黒田] 今、なぜヒューマンイズムを問うのかを説くなかで、現代社会の特徴と諸問題を明らかにする。人間が人間として生き、人格として育つための条件となるのが、基本的人権の主張とその保障である。人権とは何かを論じ、人権の思想の歴史的発展と現代の状況を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ヒューマンイズムの意義 2、人間を考える 3、人権の承認と保障の歴史 4、人権思想の発展と「現代」の課題 5、教育・福祉とヒューマンイズム <p>[後期：担当 平賀] 戦時下の人々の戦争体験記録などを題材にしなが、戦争と人間との関わりを考えることで、平和の問題にアプローチしてみたい。そして、戦時・戦後の平和への人々の願いが現行憲法に託されていた経過を明らかにする。さらに、その上で、近年の平和学の研究成果に学びながら、平和の国際的条件、日本の役割、人権・福祉などの問題にも踏み込んで、現代における平和の意味について考えてみたい。大きな枠組みとして以下のようなテーマを設定している。</p> <p>◇戦争と平和ー日本の戦時・戦後 ・総力戦としての近代の戦争 ・精神生活にまで及ぶ総動員 ・戦争体験が語る心の中の反戦、非戦</p> <p>◇憲法の平和主義 ・戦後改革と平和憲法への道 ・国民の平和意識に支えられた憲法の平和主義 ・憲法9条を世界に広げる運動</p> <p>◇平和学の到達点 ・戦前、戦後史研究の蓄積と戦争責任論 ・「構造的暴力」の問題ー戦争がなければ平和なのか ・人権、福祉と平和 ・国際平和の思想と運動</p>	
【評価方法】 <p>年2回レポートを課す</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 磯山 滯一
【開講期】 1 年 前期・後期	
【授業目標】 <p>比較的短くて平易な物語りを多読することで、英文を読む力を伸ばすと同時に、そこで用いられた語彙、表現などを活用して身近なことを英語で話したり書いたりする力を養います。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>テキストはプリントを配ります。参考書として、高校時代に用いた文法の教科書あるいは参考書を手元に置いて、テキストに出てくる文法事項を必ず復習するよういにしてください。</p>	
授 業 計 画	
<p>前期は、Damon and Pythias / After Twenty Years / Modern Aesop Stories など比較的短い作品を読みます。</p> <p>後期は、He Cannot Really Read / Told by the Schoolmaster など前期よりはやや長い作品を読みます。</p>	
【評価方法】 <p>定期テスト、小レポート、出席状況を総合して評価します。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1, 2

【担当者】 藤田久美子

【開講期】 1 年 前期・後期

【授業目標】

名作映画の主題歌を、映画のビデオを見ながら鑑賞することを通して、英語の美しさを認識し、その独特な表現を学んでほしいと思う。

【テキスト・参考書】(1) Screen English - Sing! Sing! Sing! -
(Yukitoshi Watanabe 他編 NCI 出版)
(2) Speed Reading In Action (Elementary)
(Gary Cantor 他編 Kirihara Shoten)

授 業 計 画

だれにも好きな英語の歌の何曲かはあると思うが、そうした曲も、内容をはっきりと把握し、聴覚的な意味での言葉の美しさを理解すると、その魅力が一段とよく分かってくるものである。そこでこのクラスでは、名作映画の中で主題歌として使われ有名になった歌の数々を、ビデオとテープを利用してじっくり鑑賞していきたい。

クラスでは Screen English の勉強に約 1 時間を当てたい。ビデオで歌の場面を見て歌われている内容を確認し、テープを利用した listening dictation などの exercise に答えていく。また、主題歌を聞き、歌ってみるだけでなく、映画そのものもいくつか見たいと思う。

授業の準備としては歌詞をよく読んで、内容を自分なりに理解してくること。授業では歌の意味について質問するので、予習は必須である。

残りの 30 分ほどを速読練習に当てる。テキスト (Speed Reading In Action) は一つのユニットが適度な長さのニュース・ストーリーや論説を扱っている。文章を日本語に訳さずに、要点を見逃さないようにしながら、しかもなるべく速く読んでいく練習をしたい。

【評価方法】

出席状態、毎回の練習問題の結果、そして普段の授業態度（積極性など）を、だいたい同じ比重で見つて評価の基準とする。

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 清野茂子
【開講期】 1 年 前期・後期	
【授業目標】 <p>13世紀から現代のイギリス社会に突然現れたWilliamが、いろいろな異文化体験をする drama. 彼と共に、現在のイギリスを理解し、楽しみながら spoken English for communication の力を養って欲しいと思う。</p>	
【テキスト・参考書】 <p>" Cousin William I " -- essential spoken English for communication -- Scibido; ¥1,800</p>	
授 業 計 画	
<p>テキストは、ドラマの部分とコメンタリーの部分に分かれています。 1年間を通して、授業は20の unit からなるドラマを中心に進めます。 コメンタリーに関しては、授業中に行う簡単な質問に回答出来るように、各自、自分で内容を理解して出席すること。</p>	
【評価方法】 <p>出席日数、平常の小テスト、および期末テストを総合して評価する。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1, 2

【担当者】 菊地 恵子

【開講期】 1 年 , 前期・後期

【授業目標】 テキストとして英米児童文学等を使用して、英文を読む力、味わう力を養うとともに、英米文学に現れる子ども像から、児童が育つのにふさわしい人間関係、環境や社会を考察していく。また、視聴覚教材を利用して、英語を聞き、話す力も高める。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

- 1 小さな子どもを扱った児童文学やマザーグースなどの作品を読みながら、英語圏で子どもたちが日常使う会話表現や詩、物語文を学ぶ。
- 2 テープやビデオなどの視聴を通し、英語のイントネーションやリズムを学ぶ。
- 3 作品に現れる子どもの生活を、日本の子どもの現状と比較して考えてみる。
- 4 夏休みの課題として、自分の好きな英文を探し、その一節を暗唱できるようにする。
- 5 現代の子どもを取りまく問題のなかで、自分の研究テーマとしたいことを選び、関連した問題を扱った新聞や雑誌の英文記事を個人またはグループで読み、レポートを作成して発表する。

【評価方法】

小テスト、暗唱発表、レポート（発表）、平常点 [出席、自主学習、質問、意見発表等] を総合して行う。

【授業科目名】 選択語学Ⅰ 海外語学研修

【担当者】 中島好伸

【開講期】 1年 前期の事前指導、8月にLeeds Metropolitan Universityにおいて英語研修

【授業目標】

イングランド中部のLeeds市でホームステイして、英国の家庭生活を経験しながら、上記大学において3週間の英語研修を行う。この経験を通して、英国の文化と生活に必要な英語力を身につける

【テキスト・参考書】

未定（開講時に指示）

授 業 計 画

1. 事前指導では：

- a) イギリスの文化・生活に関する基本的な表現を学ぶ。
- b) 生活、習慣についての予備知識を学ぶ。
- c) 研修に必要な情報や注意事項を与える。
- d) 旅行会社からの情報を伝え、必要なパスポート等の手続きをする。

2. 現地では：

- a) クラス分けをして効率的に学べるようにする。
- b) 午前中に2コマ、午後は主としてキャンパス内外での見学、調査。
- c) 週末にバスでexcursionを行い、歴史、文化、自然などに接する。
- d) 家庭では宿題をしたり、家族と団らんして英語だけの生活をする。
- e) 大学での研修後、ロンドンに戻り、市内見学をする。

【評価方法】

- 1. 大学での研修は現地の教員が評価を行う。
- 2. 参加状態を記録しておいて帰国後、1.と合わせて総合的に評価する。

【授業科目名】 スポーツA（エアロビクス）

【担当者】 飯塚真穂

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

エアロビクスダンスの実践を通して、健康で美しい身体、積極的な行動を可能にする身体をつくる。基礎理論を理解し、自分でダンスプログラムがたてられるようにする。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

1. ストレッチーより大きく自由に身体を動かせるよう、柔軟性を高める

腹筋のトレーニングー正しい姿勢の保持、腰痛の防止などに有効な腹筋力を強化する

2. ダンスプログラムの練習

基本的なステップで構成された3～4分程度の短いプログラムを覚える。幼児向けに応用できるようなものを含め、2曲くらいを予定。

応用：グループで隊形変化をつけてみる。

3. ダンスプログラムの作成と実演

以下のポイントを学びながら、グループごとに1曲分のプログラムを創り、発表する。

プログラムの基本構成
音楽の選定
カウントのとり方
時間配分

※必ず運動可能な服装に着替えて出席すること。

ケガの防止のためにもアクセサリははずすこと。

【評価方法】

出席＋授業への参加態度＋実技テストによって評価する。

【授業科目名】 スポーツA (テニス)

【担当者】 池森隆虎

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

ダブルス（硬式）のゲームをルールに則って楽しく行えるようになることを目標とする。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

基本動作の説明と技術練習

（フォアハンド・バックハンドのストローク及びボレー、サービス）

ルール及び基本的作戦の説明と実践

（ゲーム進行、得点、審判法、ポジショニング）

ゲームの実践

（能力クラス別にリーグ戦）

【評価方法】

出席を重視、その他として参加態度、習熟度、技術度、等を加点対象として考慮する。

【授業科目名】 スポーツA (バドミントン・卓球)

【担当者】 松岡由紀子

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 ・スポーツをすることによって、運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。

・運動技能と知識の習得及び態度の育成。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

技能練習とゲーム

〔バドミントン〕

- 1、グリップとシャトル慣れ
- 2、ストロークの練習
- 3、サービスの練習
- 4、集団技能の練習
- 5、ゲームとルール、審判法

〔卓球〕

- 1、ボール慣れ
- 2、素振りと正しいフットワーク
- 3、フォアトップ打ち、バックショート、ツッツキの練習
- 4、どのコースでも打てるようにする
- 5、正規のサービスが出せるようにする（変化サービスも）
- 6、各種打法の練習
- 7、ゲームとルール、審判法

【評価方法】

平常点とゲーム中に採点

【授業科目名】 スポーツA (バレーボール)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
【授業目標】 バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動の習慣化をはかる。 ・個人的技能及び集団的技能 ・技能の程度に応じた作戦 ・審判法及び指導法	
【テキスト・参考書】 参考書 西川順之助：バレーボール、成美堂、1995年。 斉藤秀明監修：バレーボールルールブック、有紀書房、1995年。	
授 業 計 画	
<p>科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぼす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に、継続して活動することが可能なスポーツである。</p> <p>授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボールが続けられるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創り出す授業」をめざしたい。</p> <p><u>学習内容</u></p> <p>① 個人的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスとトス ・サーブとレシーブ ・スパイクとブロッキング <p>② 集団的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻めと守りのフォーメーション ・トスゲーム、3段攻撃ゲーム、ソフトバレーボールゲーム <p>③ 指導技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術指導法 ・体力トレーニング法 ・審判法 <p><u>授業の流れ</u></p> <p>① 全体活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通課題の解決 <p>② グループ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別課題の解決 ・指導法、練習法の習得 <p>③ ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習成果の確認 ・新しい課題の発見 ・審判法の習得 	
【評価方法】 平常試験（平常点、実技等）	

【授業科目名】 スポーツB (スキー)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スキーの特性について理解し、その知識と技能（歩行、滑降、回転など）について習得できるようにする。 2 雪上環境に対する対処能力を高める。 3 スキーを親しみ愛好する能力と態度を伸ばす。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 貝谷昌禧：初歩からのスキー、成美堂、1996年。 インターアルペン：スキーレッスン、スキージャーナル社、1996年。</p>	
授 業 計 画	
<p>生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然環境を活用したスキーは、スポーツとしてだけでなく、健康の増進やレクリエーションとしても、極めて効果的である。しかし、雪上でのスキーは、さまざまな自然条件の影響を受けやすく（事故災害）、また、技能の習得において個人差が生じやすい。</p> <p>そこで、自然にふれ合うことの楽しさや喜びを十分に体験させるとともに、斜面や雪の状態に応じた適切な技能と判断能力が得られるよう、技能クラスごとに指導したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、日 程 1998年 1月26日（月） 計画、準備（学内B21、15:00～） 2月23日（月）～26日（木） スキー実習（現地） 2、場 所 学内及び「上越国際スキー場」（新潟県塩沢町） 3、参加者 学生30名、教員3名 4、内 容 ・計画、準備 ・スキー実習 第1日目：移動、スキー実技、講義 第2日目：スキー実技、講義 第3日目：スキー実技、評価 第4日目：スキー実技、ツアー、移動 ・実習内容 ：歩行、登行、方向転換、滑降、回転（プルークボーゲン、シュテムターン、パラレルターン、ステップターン等）、用具メンテナンス他 5、費 用 約47,730円（交通費、宿泊費：夕朝食費含む、保険料、手数料） *他に昼食費が必要となる。 *スキー用具、ウェアをレンタルする場合、各7,500円、4,500円が加算される。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（実技、意欲等）</p>	

【授業科目名】 健康科学

【担当者】 池森隆虎

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

現代社会における健康問題について幅広い知識を身につけ、氾濫する健康情報、流行に対して真偽を的確に判断する能力、それを活かすことのできる応用力を備えられるようにする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない。

参考書：参考図書、文献等は講義のなかで紹介していく。

授 業 計 画

1. あなたの両親は大丈夫？（そういうあなたにも...）
－成人病の予防と対策－
2. 薬をじょうずに使いましょう。
－薬の有効な利用法、問題点－
3. スマートな健康美人になろう！
－ダイエットの方法、問題点－
4. 楽しい海外旅行をするために（「何とかなるさ」じゃ..）。
－海外での健康問題、安全対策－
5. 他人事？エイズや性病について考えよう。
－性感染症の現状と予防－
6. 人が苦しんでいます...その時、あなたは何ができますか？
－応急処置法－
7. 運動は健康にいいの？
－運動の問題点、障害、活用法－
8. 世の中が変われば病気も変わります。
－現代病、新しい健康問題－

（順不同）

【評価方法】

小レポート（不定期）と試験

【授業科目名】 スポーツ科学

【担当者】 岡田光弘

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

- ・スポーツを見て楽しめるようになる、やってみたくなること
- ・スポーツを社会現象としてみる眼を養うこと

【テキスト・参考書】

日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994

AERA Mook「スポーツ学のみかた」朝日新聞社 1997

授 業 計 画

以下のようなトピックを扱うことを計画している。

1. スポーツ科学の全体像
2. ポブスレーと陸上競技
3. ジャンプ競技と揚抗比
4. 滑降競技と乳酸
5. ドーピング問題と私たちの日常生活
6. スポーツ・栄養・ダイエット
7. スポーツのフレーム分析
8. スポーツ解説の会話分析
9. 遊びとスポーツ
10. スポーツの構成的なルール

【評価方法】

各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。

專門教育科目（1年）

【授業科目名】 社会福祉概論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉についての基礎的な知識を学び、社会福祉の枠組みと視点を理解することを授業目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね、次の内容で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の概念と機能 — 社会福祉の視点 — 2. 社会福祉の歴史 3. 社会福祉の対象とニーズ — 生活問題と生活者, 対象・ニーズの変化と把握 — 4. 社会福祉法制と実施体制 5. 社会福祉の行財政 6. 社会福祉のマンパワー — 専門性と資格 — 7. 社会福祉の援助方法 8. 社会福祉の最近の動向 — 現代社会福祉の課題 — 	
<p>【評価方法】</p> <p>原則として定期試験の成績による。</p>	

【授業科目名】 児童福祉	【担当教員】 浅井春夫
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 ①児童福祉問題に関する現状を知り、その背景を学ぶ ②児童福祉施策の現状と法・制度のしくみについて学ぶ ③児童福祉政策の動向と展望を学ぶ	
【テキスト・参考書】 参考書：『子ども虐待と性教育』（大修館書店、1854円）	
授 業 計 画	
(1)日本の子どもの権利・総点検 子どもの権利条約の視点から子どもの現状を概説する (2)養護・保育問題と国民生活の変容 養護・保育問題が生まれる社会的背景について説明する (3)子ども虐待の現実と援助のあり方――スライドで被害児の現実をみる―― 諸外国とわが国の現状、虐待の基礎理論を概説する (4)障害問題とノーマライゼーションの課題 障害の捉え方を説明し、わが国と諸外国の政策動向と生活実態、その違いの根本的な問題を探る視点を提示する (5)児童問題をめぐる家族と地域社会――現代社会と地域の変容がもたらすもの―― 家族の現実を統計的に把握し、地域の変容について説明する (6)児童福祉の歴史（戦後史を中心に）――獲得してきたものは何であったか―― 法・制度を中心に概説をし、措置制度の意義を歴史的に説明する (7)児童福祉の法体系 子どもの権利の視点にたって法体系を紹介する。 (8)児童福祉の機関と施設――児童相談所と児童福祉施設の基本機能―― 問題別にどの機関と施設を利用するのかを説明する (9)児童福祉の仕事とは――社会福祉労働論の現代的課題―― 児童福祉を支える各職種の内容、その目的と実態を説明する (10)「児童福祉改革」の課題と展望――保育制度改革、子育て支援策の検討―― 児童福祉改革を概観し、現在の政策動向の特徴と問題点を考える	
【評価方法】 定期試験のみ	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育とは何か」ということの基本を理解する。 2. 保育は重要な仕事であり、やり甲斐があるということを理解する。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『 新保育原理 』 岡本富郎 他著 （萌文書林）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的と内容について紹介する。 2. 保育とは何か。（子どもの生活の現実について） 3. 保育とは何か。（子ども観とは何か。子どもはどういう存在か） 4. 保育とは何か。（保育の意義について） 5. 幼稚園について。（学校教育法「幼稚園教育要領」） 6. 幼稚園について。（現状と課題） 7. 幼稚園の歴史。（ヨーロッパと日本） 8. 保育所について。（児童福祉法「保育所保育指針」） 9. 保育所について。（多様な保育ニーズ・保育所の現状と課題） 10. 保育所の歴史。（ヨーロッパと日本） 11. 保育者について。（保育者になるために） 	
【評価方法】	

【授業科目名】 保育原理Ⅰ

【担当者】 村田保太郎

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

保育とは何か、保育の基本とは何かという原理的な問題について理解を深め、自己の保育観を形成していく上での基礎・基本について学ぶ。

同時に保育の進め方の原則、保育内容・方法の概要についての知識・理解を得る。

【テキスト・参考書】

「保育理論〔上〕（保育原理）、新・保母養成講座・第9巻」 全国社会福祉協議会

授 業 計 画

保育理念について学ぶと共に、幼稚園・保育所における保育の在り方について基本的な理解を深める。また、保育所保育指針について構造的に考究し、その考え方と内容について学ぶ。同時に、現在の保育需要の多様化と社会的背景及び保育制度や福祉について最新の情報を伝え現実的・实际的な理解を深める。そのために、テキストによる講義、問題に対する討議、スライド、OHP、VTRなどによって授業を進めていく。

- 1、保育の本質
- 2、保育の場（家庭、保育施設、保育施設の歴史、保育施設の現状）
- 3、保育所の保育の原理（特性、目標、保育の方法、保育の環境）
- 4、保育所保育の内容（保育の内容構成の原理、ねらい、内容、領域）
- 5、保育所の保育計画（保育計画・指導計画の基本的視点、種類と役割、作成）
- 6、3歳未満児の保育の内容と指導計画
- 7、3歳以上児の保育の内容と指導計画
- 8、保育形態・評価
- 9、健康・安全上の留意事項
- 10、特別保育実施上の留意点
- 11、家庭、地域などとの連携
- 12、保育所保育指針、幼稚園教育要領

【評価方法】

- 1、授業の進行状況に伴う小レポート
- 2、期末にペーパーテストを行う

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 黒 田 瑛
【開講期】 1 年前期	
【授業目標】 「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。	
【テキスト・参考書】 テキスト：「教育原理」（北大路書房 秋山和夫他編）	
授 業 計 画	
講義の中心となる主な事項は下記の通り。 1. わが国の教育の現状と問題 2. 人間と教育 3. 教育の意味と目的 4. 教育の場 - 家庭、園、学校、社会 5. わが国の教育の歴史（主として明治以降） 6. 同 上 7. 第二次世界大戦後の教育の歴史 8. 教育基本法の成立とその思想 9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領 10. 幼稚園教育要領 11. まとめ	
【評価方法】 学期末に試験を行う	

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育が行われてきた背景にある「教育思想」を理解し、自分の在り方に役立てる。 • 教育課程に関連する内容を理解し、教育の真の在り方を探究する。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>サブテキスト：『教育と学校を考える』（勁草書房 岡林遼司他編）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>世界に影響を与えた教育思想家をとり上げその思想と実践の概略を話す。また、現在の教育内容としての「教育課程」（カリキュラム）の類型を紹介し、生活指導の今日的課題等をも話す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育思想とは何か — 教育思想の流れ。 2. ルソーの教育思想。 3. ペスタロッチーの生涯と教育思想。 4. フレーベルの生涯と教育思想。（幼稚園創設をめぐる） 5. オーエンの生涯と教育思想。（保育所創設をめぐる） 6. 教育思想と教育実践と「私」との関係。 7. 教育内容とは何か。教育課程の意味と必要性。 8. 教育課程の類型と幼児教育。 9. 生活指導の内容と方法 — 幼児教育との関連を考える — 10. 教師・保育者の在り方。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試 験</p>	

【授業科目名】 発達心理学	【担当者】小松 歩
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保母・幼稚園教諭をめざす者として必要な「発達」に関する基礎知識を学ぶこと をとおして、子どもが発達する姿を個々の子どもに即して的確に捉えられるような 力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：使用しない 参 考 書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>「子どもが好きだから」、という理由だけで保育をすることはできない。 多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、子ども と関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。 人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との相互関係を通して、 その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。この変化の特徴は子 どもの年齢によって異なるので、保育者には、その特徴を見定め、適した関わり方をす ることが求められる。</p> <p>本講義では、とくに乳幼児期・児童期・青年期の発達の基本的特徴とそれをもたらす 要因について概説し、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。ビデオ教 材なども利用し、子どもたちの具体的な姿も参考にしながら、個々の子どもが発達して いく姿を正しく理解できるような講義にしたい。</p> <p>およそ、以下のような項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶ意味 ②発達のメカニズムと原理 ③乳児期・幼児期の心理的な発達の变化 ④幼児期における認知能力の発達の变化と特徴 ⑤児童期および青年期の発達の变化 ⑥遊びの発達とその意味 ⑦ことばの発達 ⑧対人関係の発達 ⑨自己認識の発達 ⑩発達と不適応 ⑪発達評価 	
<p>【評価方法】</p> <p>期末試験</p>	

【授業科目名】 教育心理学

【担当者】 高橋まゆみ

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

子どもがいかによりよく学び（学習）いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を考えることを目標にする。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

人間は社会的存在であり、環境との相互作用の中での学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この相互作用がよりよく実現するように行う働きかけつまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。子どもの発達としては、個性化をめぐる問題と社会化をめぐる問題がある。前者については特に、子どもが「わかる」ということをどのように獲得し生活への認識を広げていくかについて、認知発達、学習、知能の発達の側面からとらえ、それに対する保育者の援助のあり方や保育実践について考える。また、後者の社会化については、主に集団における仲間関係の形成からとらえ、よりよい集団をつくる援助や実践はどのように進められるかを考える。また、実践に関わる問題として発達評価の問題や集団のなかで特に援助の必要な子どもたちへの理解、あるいは早期教育など現代の教育的問題についても適宜取り上げ討論の場としたい。

主に、以下のような項目で進める。

- ① 教育・保育における援助とは－教育心理学的視点
- ② 環境と人間形成－「発達可能性」をめぐる
- ③ 認知の発達と学習－子どもが「わかる」ということ
- ④ 動機とは－意欲と自主性の発達とその援助
- ⑤ 仲間とともに－集団における人間関係とその援助
- ⑥ 教育・発達評価とは－発達評価と保育実践評価
- ⑦ 保育者の役割と援助について考える
- ⑧ 発達に遅れを持つ子どもたちの理解とその援助

【評価方法】

- ① 平常授業のなかで整理テストを適宜行う。
- ② 期末試験

【授業科目名】 小児保健Ⅰ	【担当者】 谷俊治
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、小児の心身の健康のために、保育者として知っておくべき知識や考え方について解説するつもりです。特に小児では、心身両面からの健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 1. 今村栄一・巷野悟郎 編著「小児保健」 診断と治療社 2. 高木俊一郎 編著「教育臨床序説」 金子書房</p>	
授 業 計 画	
<p>人間は、生物的存在から出発して、生物的存在→生物的存在→生物的・心理的存在→生物的・心理的・社会的存在→生物的存在→生物的存在・心理的存在・社会的存在へへと成長・発達してゆきます。そのプロセスを理解しながら、成長・発達のいろいろな側面を学んでいただきますし、その途上で起こるさまざまな問題について解説する予定です。身体発育や運動の発達のような目に見えるものを知るだけでは片手落ちです。目に見えない心の発達やその歪みを読み取ることも、保育者にとって大切なことです。心の悩みは、乳幼児では身体の病気や行動の異常として現れてきます。</p> <p>VTR、OHP、テープレコーダーなどの視聴覚機器をできるだけ活用するつもりですし、いくつかの作業を実際にやっていただきます。質問は大歓迎ですが、時間内には全員の質問には答えられませんので、毎回用紙を配って質問や意見などを書いていただきます。次の時間はねその質問の答えから始めることにします。一方交通の授業にならないよう皆様のご協力を期待しています。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 小児栄養	【担当者】 中澤 弥子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 栄養は、成長期の小児が健康で正常な心身の発育を遂げるための核の一つである。発育段階に応じて適切な栄養素を含む、おいしい食事内容及び人間らしい食行動がとれる食習慣を育てる基礎的な栄養と食事の知識を理解させる。また、保育者自身が主体的に小児の食生活を指導できる基礎をつくることを目標とする。</p>	
【テキスト・参考書】	
<p>小児栄養（二木 武、北 郁子、高野 陽、水野 清子著） 医歯薬出版</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎日食べている食事が体内でどのように変化し、どのような役割を果たし、排泄されるかに重点をおき、各栄養素の生理機能の独自性と有機的なつながりを理解させる。また各栄養素を含むたべものと日本人の食事様式の関係にふれ、日常の食生活の在り方を考えさせる。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 小児期栄養の重要性と特性 2 発達栄養生理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 摂食機能の発達 (2) 消化・吸収 (3) 排泄 3 小児の栄養代謝とたべもの <ol style="list-style-type: none"> (1) 栄養素の分類 (2) 栄養素の機能と小児期代謝とたべものの関係 4 非栄養素と生体機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 食物繊維と健康 (2) 食品中の非栄養素成分の活性発現と栄養状態 (3) 食品添加物、農薬等の生化学物質と生体汚染 5 小児の栄養所要量と食品構成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 小児の栄養所要量の見方と考え方 (2) 栄養所要量の個人化 6 保育所、保育指針にみる食事の考え方と問題点 	
【評価方法】 試験とレポート	

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】 小松 歩・佐々加代子・喜多村純子・若松美恵子
【開講期】 1年前期 ・ 1年後期	
<p>【授業目標】 この科目は通年科目であるが、9月に集中演習を行なうので、1年の半期で終える。入学後間もない保育科学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に「子どもおよび保育」を学ぶことに対する関心をより広げ、より深める動機づけとなることを目標に開講している。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキスト：使用しない 参考書 ①高杉自子・森上史朗他著 「保育内容総論」東京書籍 ②大場牧夫・民秋言・吉村真理子編著 「保育内容総論」萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業は、保育を多角的に理解することをガイドするために、心理学分野・言葉の分野・表現の分野・保育現場から、それぞれ一人ずつ計4名の教員によって進められる。講義内容はおよそ以下のとおり。</p> <p>■講義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに ——この科目の方針、他の科目とのつながりを知る—— 2. 幼稚園・保育所の保育の共通理解について 3. 今、幼稚園・保育所に求められていること 4. 子どもを知ろう ——幼稚園の現場から—— 5. 子どもと保育者——大人・保育者の役割—— 6. 7. 子どもの行動——行動類型と特性①—— 8. 子どもの行動——行動類型と特性②—— 9. 子どもの行動助成——保育援助の内容と方法 総論—— 10. 子どもの行動助成——幼稚園保育における援助の内容と方法—— 11. 子どもの行動助成——保育所保育における援助の内容と方法—— 12. まとめ・教員4名の合同授業 集中演習のオリエンテーション <p>■演習</p> <p>実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育実践、環境を事例としてグループで推論・観察・考察を行なう。1単位分を集中演習形式で学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1日：学内での講義と演習 第2日：幼稚園あるいは保育園を選択して演習 第3日：同 上 第4日：学内で考察・まとめを行なう。 	
<p>【評価方法】 ①平常点 ②演習レポート</p>	

【授業科目名】 健康（保健行動）	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもの健康を守り育てるために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康問題について ・子どもの保健管理について ・子どもへの保健指導について ・保育者の健康問題について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 村田 務：健康（保健行動）、1997年。</p> <p>参考書 米谷光弘編著：健康 理論編、保育出版社、1995年。 東社協保母の会保健部会編：保健活動マニュアル、東京都社会福祉協議会、1989年。</p>	
授 業 計 画	
<p>幼稚園や保育所で指導展開される「健康」領域のうち保健分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、子どもの健康を守り育てることができるか」を課題として、その基礎的な知識と技能について学ぶ。</p> <p>主な学習内容は、①健康論（今日の健康問題と子どもの健康）、②保健管理論（主体、環境、行動）、及び③健康教育論（保健教育内容論、教材論、指導技術論）である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、子どもの健康と保育者の役割 2、今日の健康問題と子どもの健康 3、健康観と健康の成立 4、子どもの健康と環境 5、子どもの健康と保健行動 6、保育者の健康問題 7、学校（保育施設）における保健活動 8、学校（保育施設）における保健管理 9、保健管理実習：環境衛生検査 10、学校（保育施設）における保健指導 11、教育要領・保育指針における「健康」領域 12、保健教材及び指導技術 13、保健の指導案づくり実習（模擬指導を含む） 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常点（小レポート、出席）</p>	

【授業科目名】 言葉Ⅰ（言語行動）	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 （1年前期 ・ 1年後期 ・ 2年前期 ・ 2年後期）	
<p>【授業目標】 人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせて考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>保育者養成のための言語1997年版（私製）、言語習得と人間関係、犀書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と言語：言語の定義、機能 2. ことばとキャッチボール 3. コミュニケーションの基本的過程 4. 日本語の特徴、敬語 5. 言語発達の標準像（0～6歳まで） 6. 文字学習能力の発達 7. 言語発達に関連する人間関係の要因 8. 言語指導の実際：言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど） 9. 障害児の言語指導：発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症 10. よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法 11. 演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児の行動観察記録（レポート） 2) 日案（レポート） 3) 日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回 4) 発達助成論 12. 保育者養成における“言語”教育 13. 研究法 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う</p>	

【授業科目名】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』 (ひとなる書房)</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。今日では、乳児保育も普及しつつあるが、今なお、「3歳までは母親の手で」、「赤ちゃんを保育園に預けるのはかわいそう」という考え方も根強く存在する。また、親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。</p> <p>(1)乳児保育をどうとらえるのか 乳児保育をめぐる思想・理論的問題</p> <p>(2)乳児期の子どもの発達と保育 0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育 2歳の発達の特徴と保育</p> <p>(3)乳児保育の内容と方法</p> <p>(4)乳児保育の歩みと現状、課題</p>	
【評価方法】	

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】

個々の発達に合わせた適切な学習の機会を確保し、児童の文化理解を深め、社会生活に必要となる能力を育成する。

【テキスト・参考書】 テキストは使用しない。参考書は授業で紹介する。

授 業 計 画

児童文化の理解を深め、社会生活に必要となる能力を育成する。児童文化の理解を深め、社会生活に必要となる能力を育成する。

【評価方法】

1年後期（学年末）に、筆記試験或いはレポートにより評価する。

【授業科目名】	音楽Ⅰ（基礎理論）	【担当者】	加宮 葵・平野 ミヨ子
【開講期】	1年前期		
【授業目標】	楽典を学ぶ事により、音楽を基礎的に理解し、保育者に要求される音楽的な表現や活動がスムーズにすすめられる様に、という事を目標にしている。		
【テキスト・参考書】	テキスト : 下総皖一「楽典」		
授 業 計 画			
音	音の種類と性質		
譜表Ⅰ（記譜上の約束ごとの理解）	五線・加線・音部記号・音符・付点音符・複付点音符・休符		
音 名	付点休符・縦線		
	拍子の数え方・全休符の使い方・変化記号・速度記号・強弱記号		
	シンコペーション・連符・タイ		
音 程	全音階的音程・半音階的音程・協和音程と不協和音程		
音 階	長音階：調号(#, b) 4個迄		
	短音階：調号(#, b) 4個迄（自然短音階・和声短音階・旋律短音階）		
	音階各音の名称（主音・下属音・属音・導音）等		
調	調と調号 調の相互関係		
移 調	学生がよく知っている曲等を実際に移調し、いろいろなパターンをこまかく指導する		
和 音（伴奏づけの基礎としての和音の理解）	三和音・主要三和音・属七の和音		
	主要三和音の転回・属七の和音の転回		
譜表Ⅱ（記譜上の約束ごとの理解）	省略法・反復記号・Da Capo(D. C)・Dal Segno(D. S)・スラー・テヌート		
	スタッカート・リタムント・フォルマータ・装飾音符と装飾記号・トリル・発想記号 等		
【評価方法】	期末試験の成績		

[授業科目名] 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）

[担当者] 下記参照

[開講期] 1年前期・1年後期

[授業目標] “Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソッド以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。

[テキスト・参考書]

テキスト 「Piano method」鷺見五郎著 共同音楽出版社

参考書 チェルニー100番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他

授 業 計 画

(概説) 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのではないのでしょうか？ピアノは（アコーディオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまるやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも（シンセ）を別にして、ピアノしかありません。約200本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハープシコード”を短縮したものです。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えようと、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。

さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。

① テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。

② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。

①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということがありませんが、特に初心者と中級程度の方は自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。

[テスト曲] GI・・・P. 27 カッコウ

GI・・・P. 51スケール、カデンツ、曲は未定

GI・・・p 64スケール、カデンツ(ペダル)、曲は未定、

GI・・・未定 GI・・・担当教員が選曲指定する。

[各グレードに対応する評価点] (平常点は多少影響する)

GI合格・・・(B) 60~79(初心者の場合80点もあり得る)

GI合格・・・(A) 80点以上

GI合格・・・(A) 80点以上

[担当者]

秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子

瀬戸由起子・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子

福島省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由起子(2年のみ)・岡益代(1年のみ)

[評価方法]

実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。各期の試験は全員が受験しなくてはならない。また、2年次の最終試験以外は、追、再試を実施しないから気をつけること。

ピアノの最終成績はピアノ・カードに100点満点で記載されるが教科[音楽Ⅰ]の成績評価は[ピアノ][声楽][基礎理論]の総合評価である。尚、上段に記した評価点や受験の仕方に関しては大まかな内容を示してある。

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】加宮 葵・平野ミヨ子
【開講期】 1年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : ソルフェージュ : コンコーネ50番</p>	
授 業 計 画	
<p>① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践</p> <p>② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。</p> <p>③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。</p> <p>④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。</p> <p>* 1講時につき ソルフェージュ 15曲 2講時につき コンコーネ50番 1曲 } をマスターする。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点と出席点</p>	

【授業科目名】 図画工作 I	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 1 年前期・1 年後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期では、保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とする。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行なう。 ・後期では、子どもの表現行動を総論的に概観し、子どもの造形的表現の諸特性を理解する。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『造形（アート）にチャレンジ』…枝常・八木・花原(ずき版)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。前半と後半、それぞれの第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <p>前半（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か 2. 基本的な素材とその使い方について 3. 基本的な道具とその使い方について 4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について 5. 平面をつくる基本について 6. 立体をつくる基本について 7. 造形と科学の関係について <p>後半（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感性と表現について 2. 見える表現と見えない表現について 3. 子どもが表現しようとしている意味について 4. 子どもの表現の源泉について 5. 子ども表現の発達について 6. 子ども表現を援助する理由と目的について 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①文献購読の方法について学ぶ ②問題意識の形成をめざす ③集団学習の楽しさと厳しさを体得する 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ開講時に指定する</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠは、1年半のゼミ学修期間のはじめの半年間のゼミナールである。夏休み前には、学生がどのゼミナールに所属するのかを決めることになる。その決定を自信をもって選択できるようにするために、以下のような計画をしている。</p> <p>まず5月におこなわれる八王子オリエンテーションセミナーで、各教員が開講するゼミ形式による学習を体験することになる。</p> <p>また6月には、ゼミナール説明会がおこなわれる。そこでは各教員によるゼミテーマの説明と教育方針が説明される。</p> <p>その他に、ゼミ室訪問期間などを設けているので各教員に直接会って話を聴く機会も持てることになっている。</p> <p>こうしたチャンスを生かして、自ら学びたいテーマと課題を鮮明にしていくことでゼミナールの選択をすることがもとめられるのである。この半期のゼミをステップに2年のゼミナールⅡで、さらに本格的なゼミナール活動をおこなうことになる。</p> <p>白梅学園短期大学だからこそ体験できるゼミナールで大いに学ぶためにも、自らの真摯に学ぶ姿勢と目標をできるだけ早く創って行ってほしい。そのことが充実したゼミナールを創っていくことになるのである。</p> <p>どうぞ本当に入りたいゼミを選んで、1年半のゼミナール活動を満喫してください</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミ活動への参加状況</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】加宮 葵・若松美恵子他
【開講期】 1年前期	
【授業目標】 幼稚園実習を通して、幼稚園の教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。	
【テキスト・参考書】 『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携 参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど	
授 業 計 画	
<p>1年生の実習は6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。 この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知って欲しい。</p> <p>(1年次) 見学・観察実習のテーマ</p> <p style="padding-left: 40px;">「日課について学ぶ」</p> <p>ポイント ① 子どもの活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 80px;">② 保育者の活動について学ぶ</p> <p style="padding-left: 80px;">③ 保育の環境について学ぶ</p> <p>上記のテーマとポイントについては実習のオリエンテーションで詳しく説明する。</p>	
【評価方法】 学内オリへの出席／受講 実習日誌 実習中の出欠席 学内反省会 などを総合して評価	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅰ）

【担当者】 吉川研二・鈴木佐喜子 ほか

【開講期】 1 年 前期・後期

【授業目標】

保育資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携

授 業 計 画

今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変る場合もある。

《実習前》

- I. 事務手続オリエンテーション（全実習）
実習園の一覧表、実習生個票（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。
- II. 実習園の配属
学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。
- III. 1. 「保育所実習Ⅰ」の意義と目的（講義）
実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。
2. 実習日誌の書き方
1) 日誌を書く理由、2) 日誌を書く目的、3) 日誌を書く上での諸注意、4) 記録のポイントなど。
3. 実習の心構えと具体的注意事項
1) 実習への抱負や課題、2) 実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。
- IV. 保育における子どもの生活と保育の流れ（講義）
保育所の職務内容
保育の日課
1) 日課とは、2) 日課の意義、3) 日課に関わる条件、4) 3歳未満児クラスの日課の特徴、5) 幼児クラスの日課の特徴。
- V. 実習生を受け入れて（講義）
保育所現場から
1) 子どものこと、2) 保育のこと、3) 保育者のこと、4) 保育所のこと、5) 実習とは、6) 実習生に望むこと、7) 学んでほしいこと、8) 実習での諸注意など。
- VI. 実習日誌の提出・点検・指導

実習 11月17日（月）～11月28日（金） 10日間

《実習後》

- VII. 実習を振り返って（反省会）
各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。
- VIII. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接

【評価方法】

平常点

【授業科目名】 保育所実習Ⅰ

【担当者】 吉川研二

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 2年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに保母資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と保育の流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、年齢ごとの子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法についても具体例によって学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携
参考資料として各園から出されている施設概要・園便りなどのパンフレット

授 業 計 画

学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は11月17日（月）から11月28日（金）の10日間行われる。

1週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の10日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。

なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。

【評価方法】 学内オリ「実習指導」への出席／受講・実習日誌の記録
実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価

教養教育科目（2年）

【授業科目名】 総合科目 人間	【担当者】 吉川・浅井・村田・富永
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
【授業目標】 「環境を考える」という統一テーマで、4名の教員がそれぞれの専門的立場から、地球の問題として、健康の問題として、教育の問題として、経済学的な視点からの問題としての環境をとりあげる。	
【テキスト・参考書】 テキストは使用しない。参考書は授業の中で各教員によって指示される。	
授 業 計 画	
I 宇宙船地球号の環境を考える 1. 主体と環境－ゾウの環境ネズミの環境 エコロジーの意味するところ 2. 大気環境 二酸化炭素・オゾン層 3. 水環境 ミネラルウォーターと天然水 酸性雨・富栄養化・水汚染 4. 緑環境 樹木のライフサイクル 森林と砂漠化 5. 生物－環境モニタリング 生物の多様性と種の保全 (6.) 地球環境と人類 持続可能な消費は可能か Reduce・Recycle・Reuse II 教育環境を考える(子どもをとりまく環境) 1. 世界の子ども生活環境 ユニセフ「世界子供白書」から(困難な条件の中で生活する子どもたち) 2. 子育て環境としての家族の現在 家族の養育機能について(子育て不安 子供の虐待 子育てと家族) 3. 学びの環境としての学校の現在 学校とは(いま学びの楽しさ 出会いの楽しさは?) 4. 遊び環境の変容 アナーキースペースとしての遊び環境 遊びと子どもの人格形成 5. メディア環境と子どものセクシュアリティ メディアの有害性とはなにを意味するのか メディアが子どものセクシュアリティに与える影響 III 環境と健康 1. 温熱環境への生体反応(・ホメオスタシス・調節と適応、順化) 2. 暑さの健康科学(・暑さに対する体温調節・熱中症・暑い地方の人々) 3. 寒さの健康科学(・寒さに対する体温調節・凍死・寒い地方の人々) 4. 暑さ寒さと日本人(・耐暑性・耐寒性・男女差) 5. 至適温度への働きかけ(・暑さ、寒さへの対応・健康と冷暖房・) IV 戦後50年、日本経済の発展と家族・家庭生活の変化 1. 戦後における日本経済の発展過程 2. 戦後50年における家族・家庭生活の変化 3. 現代勤労者家族の経済生活をめぐる諸問題	
【評価方法】 試験の時期と評価方法は担当教員によって異なり、授業時間に担当者によって指示される。	

專門教育科目（2年）

【授業科目名】	社会福祉方法論	【担当者】	佐野 英司
【開講期】	2年 前期		
【授業目標】	<p>社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあつたらよいかをしっかりと押さえた上で、住民（児童、障害者、高齢者を初めとした住民全般）の生活実態と、そこからもし出される福祉課題・生活課題（福祉ニーズ）を学びます。</p> <p>次に、福祉課題・生活課題に対する実践事例を通して、福祉・保育に関わる“必要な援助”とは何か、その技術と方法は如何にあつたらよいかを考えていきます。</p>		
【参考書】	<p>「子育ての危機と保育の公的保障」（ひとなる書房・・・鷺谷善教編）</p> <p>「私のまちのこども生き生き」（ひとなる書房）</p> <p>「豊かさとは何か」（岩波新書・・・ 淑子著）</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」（文理閣）</p> <p>「心病める人たち」（岩波新書・・・石川信義著）</p> <p>「社会福祉援助技術」（建 社・・・介護福祉士選書・5）</p>		
【授業の進め方】	<p>上記授業目標にそつて、授業の度にプリントを配り、それに基づいて授業を進めていきます。また、授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。</p> <p>授業は、定時に始めます。最初の10分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートなどにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。</p> <p>クラスによっては月曜日の1限ですが、頑張ってください。</p>		
【評価方法】	<p>毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況（平常点）、定期試験（レポートです）の総合点で評価します。</p> <p>出席、遅刻は非常に重視します。</p>		

【授業科目名】 社会福祉方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。	
【テキスト・参考書】 授業の中で適宜紹介する。	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術の体系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉援助技術の体系 (2) 直接援助技術の概要 (3) 間接援助技術の概要 (4) 関連する援助技術の概要 2. 社会福祉援助活動の過程と共通課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉援助技術の展開過程 (2) 社会福祉活動の共通課題 3. 社会福祉援助技術が適用される場（援助組織）と対象分野 <ol style="list-style-type: none"> (1) 援助技術と適用される場（援助組織）との関係 (2) 対象別・分野別にみた社会福祉援助技術 	
【評価方法】 平常授業時のリアクションペーパーと学期末レポートによる。	

【授業科目名】 保育原理Ⅱ	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 1年時の保育原理Ⅰ、及び保育実習などを通して得た知識や理解の上に立って、保育所における保育の実際について理解を深める。そのために、保育所保育の評価の観点を明確にして、保育内容等の在り方について具体的・実地的な理解を深める。	
【テキスト・参考書】 「保育内容等の自己評価」のためのチェックリスト、(1) 保母篇 (2)園長(所長)篇 全国社会福祉協議会	
授 業 計 画	
<p>学生は、保育実習を通して保育所を概括的に理解しているだけで、実践的・具体的な経験も理解も乏しいのは当然である。しかし、チェックリストの各項目について解説を加えながら、自己の保育を見直す視点を持つことは、保育所保育を具体的に実践的に理解する手がかりとなる。保母篇について検討することで保育内容等がより明確になり、園長(所長)篇を検討することによって、保育所保育の全体像をより深く理解しようとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、自己評価の意義と方法 2、自己評価を通してより確かな保育実践への手がかりをつかむ 3、各項目について、何故この項目が必要なのか、どんな意味があるかを考究することによって、保育実践のポイントを理解する 4、チェックリストの各項目について解説すると同時に、討論等によつて自分の考えを出すことで理解を深める 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> 1、進行状況に伴う、小レポート 2、課題に対するレポート 	

【授業科目名】 養護原理Ⅰ	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 ①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解 ②児童福祉施設入居児童の社会的家族的背景の理解 ③養護実践の基本原則（養護原理）を学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：浅井春夫編『養護原理総論』保育出版社、1997年 参考書：浅井春夫『子ども虐待と性教育』（大修館書店・1995年）	
授 業 計 画	
(1)「養護原理Ⅰ」で何を学ぶか――子どもの現状、施設論、養護とは (2)施設養護か里親制度か――現状と課題、今後の発展方向をめぐって (3)ホスピタリズム論の克服のために――ホスピタリズム論争と子ども観の再検討 (4)児童福祉施設各論－(a)養護系施設 養護施設、乳児院、母子寮 (5)児童福祉施設各論－(b)障害系施設 精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設 (6)児童福祉施設各論－(c)情緒・教護系施設 情緒障害児短期治療施設、虚弱児施設、教護院 (7)わが国と諸外国の児童福祉施設の紹介－福祉の理念と児童福祉施設の水準 (8)施設条件の現状と今後の展望－福祉施設最低基準、政策動向、子どもの権利条約 (9)養護実践の方法－援助関係における距離・時間・人数 (10)養護実践の基本原則－児童養護の課題と養護原理（6項目）	
【評価方法】 定期試験のみ	

【授業科目名】 養護原理Ⅱ

【担当者】 浅井春夫

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

- ①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ
- ②施設児童をめぐる生活課題と援助内容を深める
- ③施設養護上、必要な事項についての理解を深める

【テキスト・参考書】

テキスト：浅井春夫共編『児童養護の転換』朱鷺書房、1997年

参考書：浅井春夫編『子ども虐待シンドローム』恒友出版、1995年

授 業 計 画

- (1)子どもの権利条約と養護原理
前文と54条の基礎的理解、施設児童の権利の現実
- (2)日常生活の養護
入居前の手続きと配慮、基礎的生活と生活リズム
- (3)高年齢児の養護
思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応
- (4)子ども虐待の現状と発見・援助内容
諸外国とわが国の現状、定義と分類、対応の基本
- (5)性的虐待の現実とノーモア・シークレットの実践
人格的後遺症、施設における留意事項
- (6)性教育の基本的視点とテーマ
諸テーマをどう語るか、施設における性教育の展開
- (7)生活のなかの性教育
生活のなかですすめる視点、具体的生活場面での性教育
- (8)進路指導とアフターケア
進路指導の現状と課題、アフターケアの現状と課題
- (9)施設労働の現実と労働基準法
社会福祉労働論の基本視角、労働基準法問題の検討
- (10)21世紀の児童福祉施設像の探究
児童福祉改革の動向と課題、施設職員の専門性

【評価方法】

定期試験のみ

【授業科目名】 臨床心理学

【担当者】 村田保太郎

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

現在の乳・幼児は発達初期における親の養育上の状況によって、様々な行動上の問題を持った子どもが増えている。これらの問題に対して具体的にどのように援助すればよいかを学習する。その過程で、臨床心理学の意義や方法等の理論及びカウンセリングの基本的な理解や技法にふれる。

【テキスト・参考書】

「Q & A 子どもの心の健康相談室－0歳から6歳－」 村田保太郎著 平凡社

授 業 計 画

- 1、0歳から6歳までの各年齢段階で、実際に起きた事例をとりあげて、臨床的に解明する。
- 2、事例研究法によって、各自の考えや意見を出し合い事例の本質に迫る。
- 3、問題となる子どもの行動に対して、その原因の究明、保護者に対する援助や助言の基本を学ぶ。
- 4、ロール・プレイングによって、各自が相談者と面接者の役割を演じることによって、保育者として現場に立った時の実践力をつける。
- 5、講義及び、臨床的な問題に対するケース・スタディの方法等実践的、実際的な力を養うこともねらっている。
- 6、子どもの成長・発達と「発達課題」などについて、臨床心理学の立場から理解を深め、保育の実際に役立つような力を養う。

【評価方法】

- 1、ロール・プレイングの実際場面の評価
- 2、ケース・スタディの実際場面の評価
- 3、進行状況に応じて、小レポートを出す。

【授業科目名】 小児保健Ⅱ	【担当者】 谷俊治
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、心身障害児を理解し、QOLを高めるためのサポートについて解説するつもりです。障害児にとっても心の健康が重要であることを学んでいただきます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 1. 安藤春彦 編集「心身障害児への架橋 重複障害児の治療と指導」 医学書院 2. 飯田精一ほか「こどもの医療福祉相談」 中央法規出版</p>	
授 業 計 画	
<p>精神薄弱児（知的発達障害児）、脳性麻痺児、情緒障害児、自閉児、多動児、てんかん児、ダウン症児、視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児、重症心身障害児などの理解と保育のために必要な知識について、医学や心理学、保育や福祉の立場から解説します。障害児のQOL(quality of life)を考えるための交流分析や家族療法についても言及するつもりです。</p> <p>毎時間、授業の終わりに用紙を配り、質問や意見を求めます。次の時間は質問に答えることから始め、一方交通の授業にならないように配慮するつもりですので協力して下さい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目名】 小児保健実習

【担当者】 水波佳津子

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】 ・子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。

【テキスト・参考書】

テキスト 坂田 堯 (日本赤十字社医療センター附属乳児院編)
『乳幼児保育指針』 日本小児医事出版社

授 業 計 画

○講義

I オリエンテーション

乳幼児養育の理論と技術(基礎と実際)について
子どもの養護と自立→健康発達への支援

II 健康状態の観察

A 一般状態の観察(きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠)

B 身体各部の観察

III 小児に起こりやすい症状とその対応

・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水

IV 小児に起こりやすい事故

・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷
・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲
・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒

V より健康な子どもを育てる ・積極育児 ・赤ちゃん体操、外気浴、日光浴
・個人・集団の健康管理と記録

VI 保育者自身の健康管理

○実技・実習

I 基礎的養護方法(ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方、
おむつのあて方、おんぶ抱っこ仕方)

II 身体発達、測定の方法、評価の仕方

・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習
・発育指数 aパーセントイル曲線 bカウプ指数
・乳歯、永久歯との関わりと う歯予防について

III 病気や異常の見分け方、病児の世話

・重症であるかどうか保育者としての見分け方 ・体温、呼吸、脈拍測定の実習
・薬の飲ませ方(散薬・水薬の飲ませ方の実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明)
・薬の保管 ・症状処理等の記録

IV 感染予防 予防接種 発見と隔離 消毒法(理学的化学的消毒法)

V 沐浴実習 実物大(形状・重量)の沐浴人形を用い、全員が実習する。
(実習終了後、意見・考察・感想文提出)

【評価方法】

- ①筆記試験
- ②沐浴、身体測定の実習評価
- ③授業時の平常点、感想文

【授業科目名】 小児保健実習	【担当者】 伊藤祥子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】 乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んでいるときに、転ぶ・ぶつかる・落ちる等の事故で怪我をしたり、また急に発熱・ひきつけ等の身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときに、あわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を身につけてもらうことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター附属乳幼児院編）坂田 堯 著 赤十字急救法教本 日本赤十字社</p>	
授 業 計 画	
<p>1 乳幼児に起こりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。</p> <p>2 救急法の実際</p> <p>病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（F i r s t ・ A i d）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。</p> <p>下記5つの項目について、実施方法・一般的な注意・処置の順序などを話し、実習をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 事故防止と安全教育・救急箱の利用 ★ 体位（寝かせ方）運搬法 ★ 傷の処置・止血法 ★ 救急蘇生法 （気道内異物除去・気道確保・人工呼吸法・心臓マッサージ） ★ 包帯法 （三角巾・巻軸帯・副子の当て方） <p>実習では、学生が実際に、患者・術者を体験しながら学習をしていく。</p>	
【評価方法】	<p>筆記試験</p> <p>授業時の実習評価</p>

【授業科目名】 小児栄養実習	【担当者】 中澤 弥子														
【開講期】 2 年 前期															
【授業目標】 哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳児期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要かを理論と実習を通じて学ぶ。															
【テキスト・参考書】															
小児栄養実習担当で作製したテキストを使用															
授 業 計 画															
<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">テーマ</th> <th style="text-align: center;">理論</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 妊娠・授乳期の 栄養と食事</td> <td>1) 受精による母体の変化と胎児の成長 2) 妊娠期の栄養の特性と栄養摂取の仕方に対する配慮点（特につわり、貧血、妊娠中毒症の原因と予防について）</td> </tr> <tr> <td>2. 乳汁期の栄養と 食事</td> <td>1) 新生児の生体リズムの発現と哺乳の変化、それに伴う生活日課の組み方 2) 哺乳と授乳による母子相互作用と母乳保育について 3) 母乳と各種育児用ミルクの比較</td> </tr> <tr> <td>3. 離乳期の栄養と 食事</td> <td>1) 食文化との出会い 2) 離乳の意味 3) 咀嚼システムの発達 4) 離乳食の進め方</td> </tr> <tr> <td>4. 幼児期の栄養と 食事</td> <td>1) 幼児期栄養の特性 2) 食べ方の発達と遊び（手の運動機能と感覚の発達を促すための） 3) 間食について</td> </tr> <tr> <td>5. 学童期・思春期 ・青年期の栄養 と食事</td> <td>1) 学童期・思春期・青年期栄養の特性 2) 各児童福祉施設の食事上の特徴 3) 子供たちが自分の健康を自身でつくれる食生活とは</td> </tr> <tr> <td>6. 成長期の栄養と 食事の評価</td> <td>1) 望ましい発育栄養状態 2) 総合的な評価方法 3) 年齢、施設別食事指導のあり方</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	理論	1. 妊娠・授乳期の 栄養と食事	1) 受精による母体の変化と胎児の成長 2) 妊娠期の栄養の特性と栄養摂取の仕方に対する配慮点（特につわり、貧血、妊娠中毒症の原因と予防について）	2. 乳汁期の栄養と 食事	1) 新生児の生体リズムの発現と哺乳の変化、それに伴う生活日課の組み方 2) 哺乳と授乳による母子相互作用と母乳保育について 3) 母乳と各種育児用ミルクの比較	3. 離乳期の栄養と 食事	1) 食文化との出会い 2) 離乳の意味 3) 咀嚼システムの発達 4) 離乳食の進め方	4. 幼児期の栄養と 食事	1) 幼児期栄養の特性 2) 食べ方の発達と遊び（手の運動機能と感覚の発達を促すための） 3) 間食について	5. 学童期・思春期 ・青年期の栄養 と食事	1) 学童期・思春期・青年期栄養の特性 2) 各児童福祉施設の食事上の特徴 3) 子供たちが自分の健康を自身でつくれる食生活とは	6. 成長期の栄養と 食事の評価	1) 望ましい発育栄養状態 2) 総合的な評価方法 3) 年齢、施設別食事指導のあり方	
テーマ	理論														
1. 妊娠・授乳期の 栄養と食事	1) 受精による母体の変化と胎児の成長 2) 妊娠期の栄養の特性と栄養摂取の仕方に対する配慮点（特につわり、貧血、妊娠中毒症の原因と予防について）														
2. 乳汁期の栄養と 食事	1) 新生児の生体リズムの発現と哺乳の変化、それに伴う生活日課の組み方 2) 哺乳と授乳による母子相互作用と母乳保育について 3) 母乳と各種育児用ミルクの比較														
3. 離乳期の栄養と 食事	1) 食文化との出会い 2) 離乳の意味 3) 咀嚼システムの発達 4) 離乳食の進め方														
4. 幼児期の栄養と 食事	1) 幼児期栄養の特性 2) 食べ方の発達と遊び（手の運動機能と感覚の発達を促すための） 3) 間食について														
5. 学童期・思春期 ・青年期の栄養 と食事	1) 学童期・思春期・青年期栄養の特性 2) 各児童福祉施設の食事上の特徴 3) 子供たちが自分の健康を自身でつくれる食生活とは														
6. 成長期の栄養と 食事の評価	1) 望ましい発育栄養状態 2) 総合的な評価方法 3) 年齢、施設別食事指導のあり方														
<table border="0"> <tr> <td>【評価方法】</td> <td>1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出</td> <td rowspan="3" style="vertical-align: middle; padding-left: 10px;">} 3点の総合</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3. 実習態度等の平常点</td> </tr> </table>		【評価方法】	1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出	} 3点の総合		2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出		3. 実習態度等の平常点							
【評価方法】	1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出	} 3点の総合													
	2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出														
	3. 実習態度等の平常点														

【授業科目名】小児栄養実習

【担当者】 柳沢幸江 田原喜久江

【開講期】 2年 前期

【授業目標】

哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ、そして文化を持った人間に成長する。小児栄養実習では、乳汁期の栄養から離乳期、幼児期を経て、青年期に達するまでの各ライフステージごとに、それぞれの栄養的特性や摂食機能を理解し、保育者としてどのような食事展開が必要かを理論と実習を通じて学ぶ。

【テキスト・参考書】

小児栄養実習担当者で作製したテキストを使用

授 業 計 画

テーマ	実 習
1. オリエンテーション	1) 調理実習室での実習にあたっての基本的心得と衛生的配慮,調理器具の正しい扱い方を学ぶ。
2. 妊娠・授乳期の栄養と食事	1) 20代女子の1日の食事を基本にして,妊娠・授乳期の食事展開を行い,食品や食事の配慮を学ぶ。加えて,自分の食生活の在り方を学ぶ。 2) 妊娠期におきやすい,つわり,便秘,貧血,妊娠中毒症の食品選択,調理方法を学ぶ。
3. 授乳期の栄養の栄養と食事	1) 各種の育児用ミルク,フォローアップミルクの特徴を知り,無菌操作法による調乳を実習する。 2) 母乳栄養・母乳保育に関わる冷凍乳の扱い方を実習する。 3) 離乳準備食としての果汁・野菜スープを実習する。
4. 離乳期の栄養と食事	1) 離乳の基本をもとに,乳児の摂食機能・感覚機能・運動機能の発達に伴う離乳食の進め方を初期・中期・後期・完了期にわけて実習する。特に食事量,調理形態,味付けの変化を中心に調理展開する。
5. 幼児期の栄養と食事	1) 幼児の発達年齢別に生理機能・摂食機能・心理面の発達に応じた食事を同一の食素材を用いて実習し,その配慮点を学ぶ。 2) 幼児に適した食具と調理形態の関連を学び,与え方を学習する。
6. 学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1) 児童福祉施設の中で養護施設を取り上げ,一日の食事で,子供たちが参加できる料理,及びおやつの実習を行う。 2) 食習慣形成の自立期としての食事マナー,食事環境の在り方を学ぶ。

【評価方法】

- | | |
|---------------------------|---------|
| 1. 試験および各テーマ毎に実習のレポート提出 | } 3点の総合 |
| 2. 保育者としての自分自身の食事診断レポート提出 | |
| 3. 実習態度等の平常点 | |

【授業科目名】 精神保健	【担当者】 工藤 行夫
【開講期】 2年後期	
【授業目標】 精神的健康の保持、増進をはかり、精神障害を予防、治療する諸活動が精神保健である。WHOの健康の定義に「身体的、心理的、社会的にwell-beingの状態にあること」とあるように、身体レベルから社会レベルまで広い領域が含まれる。精神の発達段階（ライフサイクル）に応じたそれぞれの精神保健を、臨床的知見を交えながら検討する。	
【テキスト・参考書】 テキスト：武正建一編『精神医学サブノート』（南江堂）	
授 業 計 画	
<p>概ね以下の項目について授業を進める予定。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康、精神の発達 2. 心身相関、心身症 3. 精神力動、神経症（ノイローゼ） 4. 小児の心性、自閉症 5. 思春期の心性、思春期やせ症 6. 精神分裂病（1） 7. 精神分裂病（2） 8. 退行期の心性、躁うつ病 9. 薬物依存、アルコール依存 10. 老年期の心性、老年期痴呆 11. 社会との関連、精神鑑定 12. 日本の精神医療 	
【評価方法】	

【授業科目名】 教育課程総論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 子どもは、家庭、地域、園で生活する。したがって園での生活の在り方は、一人の子どものトータルな生活との関連で考えられなければならない。この授業では、子ども主体の園生活の在り方、楽しい園生活の在り方と教育課程との関連を話す。	
【テキスト・参考書】 特になし。	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育の現状と今後の課題について。 ○ 園生活と家庭及び地域生活との関連について。 ○ 子ども（Animal educandum）と教育課程の必要性との関係について。 ○ 「生活」の概念と「生活保育」について。 ○ 「楽しい園生活」とは何か。（具体例について） ○ 「あそび」と「教育課程」 ○ 「体験」「経験」と「教育課程」 ○ 「行事」と「教育課程」 <p>以上のことを、実際の事例を紹介しながら話す。尚、必要に応じてスライド・ビデオを使用する。</p>	
【評価方法】 試験	

【授業科目名】 人間関係（社会行動）	【担当者】 民秋 言
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようににはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>大場牧夫・大場幸夫・民秋 言著『子どもと人間関係 - 人とのかかわりの育ち』萌文書林 ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼児・保育資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連-共通点と異なる点も併せて説明する。 2. 保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要などころであるから、ていねいに話す。 3. 保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの 하나가当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。 4. 人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれるものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。 5. 社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。 6. 子どもが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。 7. 人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。 8. 子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。 9. 園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。 10. 園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どもたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。 11. 「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">期末にペーパーテストを実施</p>	

【授業科目名】 環境 I (自然認識)

【担当者】 近藤正樹・小作明則

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】 子どもたちは自然環境の中で自然物・自然現象に接することにより知的体験を拡大して行く。しかも日常の行動に反映されながら展開して行く。この教科目では幼児教育に必要な保育者教養と指導上の要点について講じ、演習・宿題によりその定着をはかる。季節の問題があるので体験学習を前半に、論理的学習を後半に配置してある。

【テキスト・参考書】

テキスト：水野真彦著『幼児の生活と自然』 教学研究社 刊

参考書：演習・宿題ごとに指定する。

授 業 計 画

以下の学習に先立ち体験学習「礎の自然観察」と栽培体験のうち「土造り」を開講期前に行う。

- 幼児のための環境設定①栽培(講義と演習)
畑づくり・土づくり 農具の使い方 施肥と防虫 栽培計画
- 幼児のための環境設定②飼育(講義)
ムシに強くなる 飼育の要点 正解は観察をしてから
- 植物の構造と分類①(講義と演習)
植物の基本構造 検索のしかた・図鑑の見方 葉の構造の観察と要点
- 植物の構造と分類②(講義と演習)
花の構造 実の構造 顕微鏡の使い方 花の構造の観察
- 昆虫の構造と分類①(講義)
昆虫の基本構造 発育と変態 昆虫の生活
- 昆虫の構造と分類②(演習)
昆虫の構造観察 アリのスケッチ(または動物のスケッチ)
- 「これなあに」「どうして」に強くなるために(講義)
認識と質問との関係 概念形成の質問 知的拡大の質問 解答不能も解答のひとつ 「正しい話」と「うそ話」
- 自然保護と環境教育(講義)
自然保護の考え方 生命尊重の意味 「かわいい」と「かわいそう」 環境教育とは
- 自然の変化を知る(講義)
天気と気象 天気図の見方・使い方 生物季節 天体・物理現象
- 『自然』とは何か(講義)
自然と人為・人工 自然界・自然物・自然現象・自然法則 自然度が意味するもの
- 保育計画におけるこの領域の問題点(講義)

【評価方法】

演習の成果・宿題の結果・期末試験の成績を総合して行う

【授業科目名】 表現Ⅰ(文化行動a)

【担当者】 秋山治子

【開講期】 2 年 前期

〔授業目標〕

幼児の音楽表現の中心である「歌う」ことを体験しながら理解する。また子どもに音楽を取り入れる真の目的は何かを考える。

〔テキスト・参考書〕

「表現①②」 高野雅子著 保育出版社

「おかあさん弾いて！先生うたって！」 秋山治子 アイ企画

授 業 計 画

〔授業計画〕

- 1・2 日本における音楽教育および保育音楽の歴史
- 3 世界の代表的な音楽教育家の思想（概説）
- 4 ダルクローズについて （テキスト：11章）
- 5 オルフについて （12章）
- 6 コダーイについて （13章）
- 7 日本のわらべ歌の音階理論
- 8・9・10 園行事など短期計画を前提とした指導計画と立案（3,4,5歳児）

〔評価〕

レポート・平常点

【授業科目名】 表現I(文化行動a)	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年前期	
【授業目標】 子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。	
【テキスト・参考書】 テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林	
授 業 計 画	
(1) 表現I(文化行動a)の中の「身体で表現する」の保育内容での位置づけを知る。保育内容「表現」及び「文化行動a」とは (2) 身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現はどんな意味があり、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。 ①表現の意味とその理解 ②身体表現の意味とその理解 ③子どもの身体表現とその意味の理解 (3) 幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。 ①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現 ②0～5歳児の身体表現の発達と特徴 (4) 保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。 ①3歳児の身体表現 ②4歳児の身体表現 ③5歳児の身体表現 (5) 子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する ①援助の基本的姿勢 ②表現の題材 ③動機づけ ④豊かにとらえる ⑤豊かに表す ⑥援助と言葉がけ	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 表現 I (文化行動 b)	【担当者】 海老原 京子・八木 紘一郎・花原 幹夫
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助指導の内容と方法を理解する。そのための具体的な教材理解、表現文化行動理解、援助指導法の三つの基本を主に習得することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>子どもの表現行動は、身体を媒体にした音楽やダンスなどの表現文化行動（文化行動 a）と、物を媒体にする造形的な表現文化行動（文化行動 b）の両方をミックスさせながら総合的に展開される。この点を視野に入れた上で、この授業では後者の造形的表現文化行動を中心に行い、その援助指導方法の基本を学ぶ。</p> <p>以下のテーマについて授業を展開していく。第 1 回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現文化行動とは 2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解 3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解 4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解 5. 造形的な表現文化行動の指導計画の立て方とその理解 6. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解 7. 総合表現の援助指導方法の理解 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常授業での課題（製作物）を評価する ・ 授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する 	

【授業科目名】 環境Ⅱ

【担当者】 近藤正樹

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】 環境Ⅰ（自然認識）では教育法の内容にも触れねばならない事情があって、保育者側の自然認識体験は制限されている。環境Ⅱでは、自然環境をさらに詳しく認識して、保育者の視野が一層開かれるように、具体的なテーマ「武蔵野自然図鑑作り」と題した総合学習を行う。全日程を通してグループ活動の体験をしてもらう。

【テキスト・参考書】

テキスト：なし

参考書：小動物の分類同定のために、グループごとに数種の図鑑を紹介する
飯田良治・民杖言編「課題研究・セミナーの手引」萌文書林刊

授 業 計 画

10月3日 グループ研究の進め方（演習） グループに分れて着席、グループテーマの決定
グループテーマは 土壌中にすむ動物・草地にすむ動物・光に集まる昆虫の採集法
※ 10月上旬には雑木林と草地で、草地動物の懐蚊張採集・夜間灯火採集・土壌動物採集を行う。これらの作業は教員の指導下で課外時間に行う。

10月17日 昆虫類の同定（講義と演習）

10月24日 昆虫類の同定（グループ活動）

11月21日 "

11月28日 接写写真・顕微鏡写真の技術指導（演習）と昆虫類の同定（グループ活動）

12月5日 "

==== 遅れているグループも12月10日までに撮影を終了しておくこと ====

12月12日 武蔵野の自然（講義）

12月19日 武蔵野の自然（講義）

“武蔵野自然図鑑”の企画と作成（演習）

1月9日 研究レポートの書き方（講義）

1月16日 研究レポート“武蔵野自然図鑑の作成と内容”の発表会（演習）

【評価方法】

学習態度・作品“武蔵野自然図鑑”・発表 を総合して行う。

【授業科目名】 環境Ⅱ	【担当者】 吉川研二
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 自然教育と環境教育に立脚し、幼児教育の場としての自然を考える。 「環境Ⅰ」で学んだ知識と技術を基に、私たちにとってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の観察の場、活動する場としてどう設計し利用するか。環境保全問題も合わせて考える。	
【テキスト・参考書】 テキスト：『小さな自然観察』思索社 参考図書：エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり・草花遊び虫遊び・カエルが鳴く山のたんぼ・野外における危険な生物・環境教育のすすめ・日本型環境教育の提案ほか多数。	
授 業 計 画	
I 講義 II 講義と演習 野外実習 III 講義と演習 IV 演習 V 演習 VI 講義 VII 講義 VIII 演習 IX 演習 X+補 演習	この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。 地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。高さ／距離を測る。 春（5月）秋（10月）の里山の自然 地形をみる。景観を見る。風景のスケッチ。動植物の採集と観察。 土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。 動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べリストを作る。生態や習性を知る。 動植物の整理（2） 植物図鑑を作る。 いきものにやさしい環境利用とは エコロジカルデザインーいきものと共生する町作りの例示紹介。 子ども達にとってよい自然とは エンバイロメンタルヤードー子ども達自身のお手による生物と子ども達のための自然を作る。 子どもの遊び環境を作る 里山の自然の中に子供の活動域を作る。同時に自然の保全を考える。 いきものと共生できる幼稚園（園庭・園舎）を作る。 子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物や危険な動植物など。 まとめ
【評価方法】 植物図鑑の作成 野外実習レポート＋演習の総合レポート＋平常点	

【授業科目名】 言葉 II	【担当者】 佐々 加代子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的・人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得に置く。	
【テキスト・参考書】 随時提供する。	
授 業 計 画	
<p>1) よくひびく、よくとおる声の養成 TRCを用いて反復・修正練習をしながら質を高めます。</p> <p>2) 教材を吟味する確かな目の養成 この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形 その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養うものです。ただ単に、自分が「これが好きだから」というだけではなく、選択する視点を学びます。 発想豊かになったとき、使い方はより広がりを見せるようになります。</p> <p>3) 2) で選んだ内容(教材)の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること。 実際場面を模擬的に作って実践してみます。 演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として選出していくこともします。</p> <p>4) どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成 保育場面をコミュニケーション場面としておさえていきます。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含みます。どのような人と出会ってもやっていける能力について「自分自身」をみつめることから始めます。</p> <p>演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。</p> <p>1. 絵本 1人10冊×5人=1グループで50冊 年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。</p> <p>2. 紙芝居 1人5冊×5人=1グループで25冊 絵本と同様にまとめる。</p> <p>3. パネルシアター ①「お正月」「節分」「昼と夜が半分ずつの日」から1つを選択して創話することとパネルシアターに製作する。 ②保育で大切にしたいテーマに創作話作成後パネルシアターに作製する。</p> <p>4. 手あそびを1グループ50種選定して覚えること。選出したものは小冊子にまとめること。</p> <p>5. VTRに収録 1人当り絵本、紙芝居、手あそび2、及びグループのパネルシアター2作品を収録する。</p> <p>個人の授業を終えた感想をまとめ、上記の作品を提出すること。</p>	
【評価方法】 ①平常点 ②演習発表内容 ③提出課題の量と質 によって行う	

【授業科目名】 表現Ⅱ(ダンス)	【担当者】若松美恵子
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、その文化的、教育的価値を認識させる。また、幼児の指導法についても理解させる。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味や意義を学ぶ。 聴覚障害児が初めて舞台上でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。</p> <p>(2) 感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。 テーマ 動きのデッサン 動きの変化 フレーズの動き モティーフの動き 作品構成 中間発表 修正 踊り込み 作品発表 鑑賞(ビデオ収録) ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評</p> <p>(3) 表現Ⅰ(身体表現)や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。 ①指導案作成(3歳児、4歳児、5歳児) ②模擬指導 ③反省と批評</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>舞台における実技発表および平常点</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ（デザイン）	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>子どもは「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスし、様々な目的をもって「デザイン」をしていく。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして授業をすすめていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デザインの意味・役割・機能について 2. デザインと社会の関係について 3. 子どもがデザインする意味・役割・機能について 4. 子どものデザインの具体的内容について 5. 子どものデザインとその援助方法について 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業内容すべてを一冊のファイルやノートに工夫してまとめたものを評価する</p>	

【授業科目名】 表現Ⅱ (子どもの音楽)	【担当者】 秋山治子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>赤ん坊は泣くことで自らを表現する。成長するにつれてその手段は増えていく。</p> <p>身体を使う。言葉を使う。ところで“表現する”行為にはそれを受け取る他者の存在がある。人間はお互いのコミュニケーションにおいて生きているものであり、相手の気持ちや感情を受け止めて理解するには、言語の他に豊かな感性、感情（情操）が必要であることは言うまでもない。芸術（音）の領域に触れたり理解することが、幼児の豊かな人間性や情操を育む上でいかに大切であるかを理解し、考えを深めることがねらいである。</p> <p>授業ではまず、大人と子どもの音楽・音楽表現に関する概説を行い次に各論に移る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト： 「表現」①② 高野雅子著 保育出版社</p> <p>参考文献： 「音楽をたのしむ子どもたち」 文化書房博文社</p>	
授業計画	
<p>*音楽について</p> <p>*音楽表現について</p> <p>*さまざまなスタイルの音楽表現について</p> <p>*音楽表現＝“音楽する行為”について分析的に理解する。</p> <p>*音を聞き、喃語を発声し、歌い、音楽に合わせて動き、楽器を鳴らし、音や音楽をつくる、この一連の音楽表現を音楽能力の発達と共に理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 零、1、2歳児の音楽活動に関して（乳幼児の“音経験”） 2 幼児の歌唱行動 3 幼児の楽器による音楽行動 4 幼児のあそびを中心にした音楽行動 	
<p>【評価方法】</p> <p>毎回、提出する小レポート（授業中に作成するもの）</p> <p>全体の最後に子どもの音楽表現についてグループで話し合い、音楽面における子ども個々に対する援助と集団全体に対する指導の在り方についてまとめ、各自レポートを提出する。</p>	

【授業科目名】 保育計画法

【担当者】 近藤正樹

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】 この教科目は幼稚園教諭免許取得に必要な教科目として開講されているが、就学前教育を幼稚園用と保育園用と区別することなく“幼児期を乳児期と少年期とのつなかりの上で理解できるように”と考え、子どもの発達と養護”のバランスにも配慮された教育計画法と位置づけている。前期の具体的な展開の講義を受けて系統的な整理とバランス論評価論も扱う。

【テキスト・参考書】

テキスト: 文部省編著「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館刊 (前期と同じ)
参考資料: 北柳子・西内多恵・米山千恵編著「0歳児クラスの保育実践」中央法規出版刊
又保田浩著「幼児教育の計画 構造とその展開」誠文堂新光社刊
民林吉・相馬和子編「子どもと年中行事」相川書房刊

授 業 計 画

保育の計画をする時 どんなことに気をつけたらよいか。

子どもの発達状況と関心を議みとる問題

子どもに期待しているおとなの要望を整理し、順序だてて提供するための問題

興味を持続し、すすんで体験を拓げようとする時の助力の範囲

矛盾を減らし、行動の見通しや自信につながる教育プラン

行動の発展により調整できる多方向性のある計画を考えてみる

生活年令と領域ごとの留意点を見なおしておこう。

0歳児の生活内容と助力内容

1歳児の生活内容と助力内容

2歳児の生活内容と助力内容

3歳児の生活内容と助力内容

4歳児の行動と体験の保障

5歳児の行動と体験の保障

生活体験の三層構造と保育計画の案配

日常生活として、習慣性の確立として、

ひとつひとつの体験の拡大として、ひとりあそび・仲間あそびを育てる

共同活動を通して助力の楽しさを育てる。

季節や年中行事のとりこみについて、

季節の認識と思い出をたてるための事前計画

年中行事へむけての保育計画

保育環境の整備と適度な提供について考えておくこと

「領域」って何だったのだろう

「評価」はなぜ必要なのだろう

保育者にとって「評価」は何をもたらすだろうか

子どもにとって「評価」はどのように影響するだろうか

【評価方法】

宿題(レポート)、グループ別発表、期末試験を総合して評価

【授業科目名】 保育計画法

【担当者】 藤野敬子

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】

家庭や地域と共に育ちあう保育。子どもと共に生きる保育の計画について
具体例を通して学ぶ。自分の手記計画を作ってみることにし、計画をたてる
楽しさ、楽しさ、工夫する楽しさ、か体験で学ぶと学んでいる

【テキスト・参考書】

テキスト 指導計画の作成と保育の展開 (文部省) フレーズ館 110頁
参考になる資料はプリントに配布

授 業 計 画

環境による教育をめぐる保育では、何よりもまず家庭、地域と音楽を共に
ながら保育する姿勢が向かわれる。先々において、幼児にも多様な人々との出合
いの機会が増し、自発的な遊びや主体的な生活が充実してくる。計画も
単にどんな活動をすればいいかというだけでなく、どんな環境の中で子ども一人
か、どんな保育者や友達と共に生きているかという姿も中心にしていく。

1. 保育の計画とは

- (1) 環境の変化にたいして、家庭、地域と共に育ちあう計画
- (2) 環境の中に どのように保育者の役割
- (3) 知の育つべく 道徳性と個性の多様な姿

2. 計画をたてる

- (1) いろいろな計画への理解 と、 一日の計画の作成
- (2) 実習で実践した計画の検討
- (3) 記録のとり方と計画の評価

3. 計画をたてる楽しさ

- (1) 知恵と共に分けあうように計画
- (2) 障害児、老人などとの交流の中で育つ計画
- (3) 国が文化の発信地となる計画

【評価方法】 レポートと 日常のレポート、作成した計画など

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考文献 授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、前半は講義形式、後半は演習形式で、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいきたい。</p> <p>(1)今日の社会と乳児保育 — 親の労働や子育ての実態と乳児保育 —</p> <p>(2)乳児保育の内容と方法に関する問題</p> <p>(3)乳児保育をめぐる思想的、理論的問題</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 養護内容	【担当者】 浅井春夫
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 ①養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ ②演習形式を通して、実践能力を養成する ③施設児童とのコミュニケーションの方法を学ぶ	
【テキスト・参考書】 テキスト：シンシア・ノモハン『子どもの心の傷を癒すために』講談社 浅井春夫編著『子ども虐待シンドローム』恒友出版	
授 業 計 画	
<p>上記のテキストを輪番でレポートし、具体的なテーマに即してロールプレイ、ビデオを使っでの評価など、実際に言語的・非言語的コミュニケーションのあり方について実習してみる。</p> <p>授業をともにつくる姿勢で出席することがもとめられる。</p> <p>(1)問題意識の交流、授業計画・方法の確認</p> <p>(2)事例研究の方法 実践記録をもとに事例検討をおこなう</p> <p>(3)子どもの心はどのように傷ついているか (a)年齢別の状況 (b)問題別の状況</p> <p>(4)PTSD事例の検討</p> <p>(5)性的虐待事例の検討</p> <p>(6)具体的なケアの方法</p> <p>(7)治療的な関わりを妨げるもの</p>	
【評価方法】 ①出席状況と討議への積極的姿勢（持ち回りでレポートをおこなう）	

【授業科目名】 障害児保育	【担当者】 高橋まゆみ
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 障害児の行動特徴や発達課題を理解し、障害児保育、主に統合保育における保育実践のあり方を考える。	
【テキスト・参考書】 平山諭ら「障害児保育コンセンサス」（福村出版）	
授 業 計 画	
<p>「障害児保育」とは、専門施設における少集団保育（分離保育）を指す場合と、保育所、幼稚園におけるいわゆる「統合保育」を指す場合とがある。障害児を理解する上では発達をとらえそれを援助する保育実践を行う点で共通するが、実践課題としてはここでは「統合保育」を中心として考えていく。</p> <p>授業内容は主に理念、制度、発達評価、保育実践から主要なテーマを取り上げる。特に、障害児の行動特徴を理解し求められる発達課題はなにかについてこれまでに学習してきた発達心理学的な知識を使いながら評価し、それをより豊かに援助するための保育実践を治療教育的視点と社会教育的視点から理解することを目標とする。授業には実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習ができるように配慮する。</p> <p>およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解 ② 「障害」の概念と構造－保育における「障害」とは ③ 障害児保育（統合保育）の実際（VTR等を使用） ④ 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障など ⑤ 子どもの発達および発達課題の評価 ⑥ 障害児保育の実践1（実践レポート、VTRなど使用） ⑦ 障害児保育の実践2（実践レポート、VTRなど使用） ⑧ 我が国における統合保育の現状と課題 ⑨ 家族への支援 ⑩ 障害児と地域、専門機関との連携 	
【評価方法】 <ol style="list-style-type: none"> ① 平常授業の中で整理テストや討論を適宜行う。 ② 統合保育実践のVTR分析あるいは実践報告のレポートをまとめる。 	

【授業科目名】 家庭管理

【担当者】 佐藤美千子

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

児童の成長発達に大きな影響を及ぼす家庭の本質と機能を把握し、家庭管理の意義と実際についての基礎的な事項を学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキストは、使用しない。

参考書： 宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論 新版』有斐閣新書 他

授 業 計 画

「家庭管理」という科目名から、古いイメージの「家事・家政」を思い浮かべ、「やりくり」の方法を学ぶことを連想するかもしれない。しかし、ここでは、家庭の経営管理をそのような「家庭内でのやりくりごと」として捉えてはいない。

この授業では、次の2点を重視していきたい。

- ①家庭生活問題の発生原因を、家庭外にも積極的に追求して考えていく。
- ②家庭生活を、人間の全面的発達保障の場として捉える。

「家族の中の個人」と「共同体としての家族」の矛盾のない発達を実現していくために、性役割を超えた男女の平等と生活協力のあり方を考えていく。

授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

- ・ 家庭生活の構造と家庭管理の問題領域
- ・ 家族の多様化と家族関係、ライフサイクルの変化
- ・ 家事労働の役割と特質、家事労働をめぐる論争と今日的動向
- ・ 生活時間の構成要素と現状、課題
- ・ 家計の今日的傾向
- ・ 生活設計 —— 自分を育て、家庭を営み、地域や職場で

確実な歩みを続けるために ——

【評価方法】

レポートと平常点

[授業科目名] 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）

[担当者] 下記参照

[開講期] 2年前期

[授業目標] “Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソッド以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。

[テキスト・参考書]

テキスト 「Piano method」 鷺見五郎著 共同音楽出版社

参考書 チェルニー100番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他

授 業 計 画

(概説) 多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーディオンのような楽器の方がいいのではないのでしょうか？ピアノは（アコーディオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができます。また、豊かな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも（シンセ）を別にして、ピアノしかありません。約200本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハープシコード”を短縮したものです。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。

さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。

① テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。

② 音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。

①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということはありませんが、特に初心者と中級程度の人には自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。

[テスト曲] GI・・・P. 27 カッコウ

GI・・・P. 51 スケール、カデンツ、曲は未定

GM・・・p 64 スケール、カデンツ(ペダル)、曲は未定、

GV・・・未定 GV・・・担当教員が選曲指定する。

[各グレードに対応する評価点] (平常点は多少影響する)

GM合格・・・(B) 60~79 (初心者の場合80点もあり得る)

GV合格・・・(A) 80点以上

GV合格・・・(A) 80点以上

[担当者]

秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子

瀬戸由起子・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子

福島省吾・藤島恵子・舛本清美・山本由起子(2年のみ)・岡益代(1年のみ)

[評価方法]

実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。各期の試験は全員が受験しなくてはならない。また、2年次の最終試験以外は、追、再試を実施しないから気をつけること。

ピアノの最終成績はピアノ・カードに100点満点で記載されるが教科[音楽Ⅰ]の成績評価は[ピアノ][声楽][基礎理論]の総合評価である。尚、上段に記した評価点や受験の仕方については大まかな内容を示してある。

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽

【担当者】 惣田 修 ・ 豊野雄次郎

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト : ソルフェージュ
: コンコーネ50番

授 業 計 画

- ① 45分の授業の中で、学生を2つのグループ(A・B)に分割し、ソルフェージュを隔週に1回ずつ必ずソロする事を義務づけ、人の前での演奏(無伴奏)に慣れる。
- ② コンコーネをソロする事は任意とし、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。
- ③ 伴奏付の練習曲をこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。
- ④ 後期では、複雑な音程やリズムを正しく歌う練習をする事により、読譜力、正しい音楽表現力を養う。

【評価方法】

期末試験の成績、平常点、出席点

[授業科目名] 音楽Ⅱ(ピ7)	[担当者] 秋山治子・諏訪玲子・関根美和子・稲村敬子
[開講期] 2年前期・2年後期	
<p>[授業目標]</p> <p>幼児歌唱教材を数多く知り、実践に即した即興伴奏法を身に付けるなど、音楽Ⅰ(ピアノ)で習得した演奏能力を応用力にまで高める。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>参考書・「保育・幼児音楽教育のための キラッとマーチ」秋山治子、舛本清美ほか、共同音楽出版社 「こどものうた100」井戸和秀編 チャイルド本社 ほか1冊</p>	
授業計画	
<p>初心者にとっては演奏技術を更に高めることも目標のひとつにしながら授業を進めてゆきます。</p> <p>授業の主な柱をつぎに示します。</p> <p>(1) 幼児曲の弾き語り(初見力も養う)</p> <p>(2) 幼児曲を教材とする伴奏法の習得</p> <p>(3) マーチ・スキップ・ギャロップ・ラン・ワルツの学習と実践</p> <p>(4) より幅の広い音楽経験をめざした連弾の学習</p>	
<p>[評価方法]</p> <p>1 授業中に行う小テスト</p> <p>2 平常点に関しては授業への真剣なとりくみと、マナー、出席率等で評価する</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】加宮 葵・平野ミヨ子・村松桂子
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信が付き、楽しいと感じられる様にする。</p> <p>後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト : サルバトーレ・マルケージ op. 15</p>	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。 ・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。 ・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。 ・全音階の練習 ・暗譜演奏する事により、声がより前に出る事を知る。 ・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。 ・付点のスケール習得 ・短調による音階の習得 ・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。 ・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。 ・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。(テスト) <p style="text-align: center;">*毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（出席点と実技点）</p>	

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝												
【開講期】 2年前期・2年後期													
<p>【授業目標】</p> <p>独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。</p>													
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「新ギター教本」 小原安正・著（ギタラ社刊）</p>													
<p>授 業 計 画</p>													
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● 基本事項</td> <td>楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● 発音の基礎</td> <td>右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● 音階練習</td> <td>第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● 和音とアルペジオ</td> <td>三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● ソロ演奏の実習</td> <td>古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 20px;">● コードの理解</td> <td>簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。</td> </tr> </table>		● 基本事項	楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。	● 発音の基礎	右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。	● 音階練習	第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。	● 和音とアルペジオ	三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。	● ソロ演奏の実習	古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。	● コードの理解	簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。
● 基本事項	楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。												
● 発音の基礎	右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。												
● 音階練習	第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。												
● 和音とアルペジオ	三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。												
● ソロ演奏の実習	古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。												
● コードの理解	簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。スリー・コードによる簡単な歌の伴奏。												
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト（実技）に平常点を加味して評価する。</p>													

【授業科目名】 図画工作Ⅱ（版・木工）

【担当者】 捧 公志郎・花原 幹夫

【開講期】 2年後期

【授業目標】

図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とする。演習を中心に展開していく。

【テキスト・参考書】

特に使用しない

授 業 計 画

以下のテーマについて授業を展開していく。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をする。

◆版

1. 版の表現の意味・役割について
2. 版を応用した表現とその種類について
3. 版を応用した表現の実技演習

◆木工

1. 素材「木」について（素材に親しむことについて）
2. 木工の表現の意味・役割について
3. 木工を応用した表現とその種類について
4. 木工を応用した表現の実技演習

◆作品の展示について（版と木工を応用した作品を展示プレゼンテーションする）

【評価方法】

実技演習で製作した作品と、展示プレゼンテーションしたものを評価する

【授業科目名】 体育I	【担当者】若松 美恵子・有川 いずみ
【開講期】 2年前期 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 運動の極限までのびのびとリズムカルに身体を動かすことができるようにする ② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする ③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする ④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする <p>内容；オリエンテーション、幼児体育概論 体操 遊戯 基礎的ステップ 動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた一連の動き作り</p> <p>後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。</p> <p>内容；幼児期の体育の意義と内容 体力の発達 運動能力の発達 体育指導の目的とねらい 運動内容と指導上の留意事項 体育の今日的課題 運動あそびの教材研究と指導法（体操 フォークダンス 鬼ごっこ 模倣遊び ボール マット 跳び箱 鉄棒 平均台 輪 縄 伝承遊び 遊びの創作）</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。</p>	

【授業科目名】 体育Ⅱ	【担当者】 榎本至
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>様々な運動種目の紹介を通じ、運動の指導者として必要な知識・及び実践能力を養成する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に用意する必要はない。参考書については授業中に適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>以下の運動種目について、知識及び実践方法を紹介する。各項目について1～3回の授業を予定している（順不同）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソロワーク（遊具を使わず、一人で行う運動） ・ペアワーク（遊具を使わず、二人で行う運動） ・グループワーク（遊具を使わず、三人以上のグループで行う運動） ・フープ（フープを用いた様々な運動） ・ボールワーク（様々な大きさ及び形のボールを用いた、運動やゲーム） ・跳び箱（跳び箱を用いた運動やゲーム） ・マット（マットを用いた運動やゲーム） ・縄跳び（短縄や長縄を用いた運動） ・ニュースポーツ（フライングディスクやユニホックなど） ・その他 	
【評価方法】	<p>実技種目であるために、出席を極めて重要視する。怪我等で運動不可の場合も、見学（ミニレポート提出）により出席扱いとする。また、授業最終時にレポート提出を義務づける。</p>

<p>[授業科目] ゼミナールⅡ</p>	<p>[担当者] 秋山治子</p>
<p>[開講期] 2年 前・後期</p>	
<p>[授業目標]</p> <p>「乳幼児にとって質のよい音楽（うた）や質の高い音楽指導に出会うことは大変重要なことである」という保育音楽の永遠の命題に辿り着くことを目標にして、音楽教育に関する文献を読み話し合う。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>オルフ、コダーイ、ダルクロワーズ等の文献を予定</p>	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 子どもと音楽の理想的な関わりについて討論し合い、自分が子どもだったらどんな音楽活動を望むか考える。 2 3・4・5歳児クラスの指導計画を作り、皆で実践して話し合う。 3 楽器練習の成果を発表しあう。 	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レポートの成績 2 出席率、ゼミへの真剣なとりくみ、ゼミのための勉強を熱心に行っているか、等 	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 浅井春夫

【開講期】 2年 前後期

【授業目標】

- ①人間の尊厳を踏みにじる諸問題に関して検討する
- ②各自が研究テーマをもち、論文作成に取り組む
- ③保育・福祉の現代的課題の発見と現場状況を知る

【テキスト・参考書】

テキスト：ゼミ開講時に指定する

授 業 計 画

テーマ 子どもの危機に立ち向かう

子どもをめぐる問題は深刻さを増しつつある。また子どもを養育する家庭においてもさまざまな養育機能障害を抱えることが多くなっている。

前期では、エンゼルプラン、「児童福祉改革」の動向と課題について検討をしていきたいと考えている。

わがゼミでは、とくに保育や福祉の現場での体験学習をできるだけ取り入れていくが、最終的には、個人論文の作成を通してゼミの修了とするので、子どものセクシュアリティ、性教育、性的虐待、保育所、児童福祉における諸問題など広範囲のテーマから論文執筆にチャレンジすることがもとめられる。

前 期：文献購読を中心に

学外研修：現場見学、個人研究テーマの検討

後 期：個人研究の追究、論文作成、研究発表

【評価方法】

- ①ゼミ活動への参加状況
- ②卒業論文の作成

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2年前期 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「あそびについて」多様な角度から知る。</p>	
【テキスト・参考書】	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>「あそびについて」多様な角度から知る。</p> <p>本を調べたり、観察をしたり、アンケートをとったり等それらの内容については参加者と話し合っ て決める。</p> <p>主体的に学ぶ人を切に望む。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常活動の参加の状況とゼミレポート</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 加宮葵
【開講期】 2年前期・2年後期	
【授業目標】 コンサートでの演奏、ミュージカルの公演など、自分たちの声を生かした発表の場を一回でも多くもつこと。(実際に人の前で演奏する事により、自分の声の改善されていない部分を再認識し、より良い声へ向けて研究・努力すること)	
【テキスト・参考書】 : 加古三枝子 「歌のうたい方」(参考書) : 歌曲・ミュージカル等 テキスト多数 * 研究室にすべて用意してあります。	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールⅠで、基本姿勢、基礎発声等を学びやや声が出るようになったゼミナールⅡでは、一人一人の声質にあった歌曲等のやや専門的なレッスンに入ります。それと並行してミュージカルの具体的な練習に入っていきます専門的なレッスンの成果は、ゼミ員の自主的な催しとして、</p> <p style="padding-left: 40px;">クリスマスコンサートや新春コンサート等 演奏の形で発表します。</p> <p>又 子どものミュージカルやディズニーパラダイスなどを研究し(時間が、ある場合のみ)幼稚園・保育園・児童館等で公演したりする事もあります。</p> <p>こまかい授業のすすめ方や、ミュージカルの選定(ゼミナールⅠで決定されている場合を除き)はゼミのメンバーの顔ぶれによって、話合いのうえ決定します。</p>	
【評価方法】 平常点	

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当者】	黒田 瑛
【開講期】	2年前期	【授業目標】	モンテッソーリの教育思想とその実際についての理解を深め、それを手がかりとして将来の保育者としての各自の課題を追求する。
【テキスト・参考書】	「モンテッソーリの教育－0歳から6歳まで－」 モンテッソーリ著，吉本二郎他訳，あすなろ書房、他	授 業 計 画	
<p>一年次後期のゼミナールⅠにおける学習を基礎として、モンテッソーリの子ども観と保育・教育観を学ぶ。モンテッソーリ保育におけるカリキュラムの体系的理解と、教具、環境、子どもの活動と人格形成などについてしっかり学び、今日におけるその意義を考えたいと願う。</p> <p>後期からモンテッソー保育とのかかわりで、それぞれ主題を選び、個人またはグループを単位として研究をすすめ、互いに発表し討議する。</p> <p>テキストの講読および関連する文献の収集に努めるとともに、モンテッソーリ法による保育園や子どもの家の見学を行う。</p>			
【評価方法】	① ゼミナール活動への参加 ② レポート		

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】小松 歩
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保母・幼稚園教諭をめざす者として必要な「発達」に関する基礎知識を学ぶことをとおして、子どもが発達する姿を個々の子どもに即して的確に捉えられるような力を養うことを目標とする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業のなかで随時紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>ゼミナールテーマ</p> <p>「発達を科学的に考える——子どもを正しく理解するために——」</p> <p>現在、子育てや保育に関する情報は数多い。そのなかには早期からの才能教育が英才を作り出す、という意見もある。こうした意見に基づく早期教育に関しては、その効果や、その後の発達におよぼす影響など、まだ明かでないことも多い。ところが、多くの親はそのことにはとくに疑問ももたずに子どもを「教室」に通わせているのが現状だと言える。このように、保育や教育が、主観とか印象・偏見・独断・迷信などに基づいて行なわれている例は少なくない。これからの保育者には、あふれる程の情報の中から、ほんとうに正しいものは何かを選択できる目が求められよう。</p> <p>そこで本ゼミでは、1年後期につづき、心理学の立場から「教育＝教えること」や「学ぶこと」について文献をもとに学習する。そして、発達の主人公である子どもの「学び」をいかに保障していくかということをとともに考え、子どもの立場にたった保育・教育について自分たちなりの考えをまとめていきたい。</p> <p>また、白梅祭などにも参加するなど、ゼミ員各自が積極的に活動し、相互の交流も深められていけるようなゼミ運営を期待する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（学習態度、レポート）</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 近藤正樹

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】 身近な自然事象について認識を深めるための体験を大切に、まだ知らなかったことや疑問を解くために、個人単位で研究をさせていただきます。
この学習を通して研究の企画・実施・論文の書き方・口頭発表のしかたについて体験することになります。

【テキスト・参考書】

参考書：田中未末 編著 『保育研究の視点と方法』 川島書店刊
他に数編の研究報告を紹介する。

授 業 計 画

(前期)

- 4月8日 研究テーマの検討開始
- 4月15日 研究テーマと研究計画書提出・研究計画の検討
- 4月22日 研究計画の検討・研究方法の相談
- 5月6日 個人計画による研究の実施・紹介論文の登録
- 5月13日 研究の状況報告・問題点の検討
- 6月10日 論文紹介①
- 6月17日 論文紹介②
- 6月24日 論文紹介③
- 7月1日 論文紹介④
- 7月8日 研究内容の中間報告
- 7月15日 研究の問題点の検討

↑
時間外を含む個人研究期間

7月末 学外研修あり

(後期)

- 9月30日 研究内容の中間報告
- 10月7日・14日 論文紹介⑤～⑧
- 10月21日・28日 研究の問題点の検討
- 11月18日・25日 論文紹介⑨～⑫
- 12月2日 研究の問題点の検討・研究成果の提出
- 12月9日 研究論文の書き方指導
- 12月16日 個人研究の論文提出
- 1月13日 論文の添削指導・口頭発表の注意
- 1月20日 論文の提出

↓
時間外を含む研究のための期間

1月27日～29日ゼミ研究発表会

【評価方法】

学習態度・研究計画と方法・論文・口頭発表などを総合して行う。

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 佐々加代子

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。

【テキスト・参考書】

随時提供する。

授 業 計 画

保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は……。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々、発信者としての自分、受信者としての自分の内容を見つめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。

そのために以下の活動をする。

1. 乳幼児の観察（新生児からを含む）
2. 障害児の観察
3. 幼稚園児の幼稚園における遊びの観察
4. 1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成
5. さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討
6. 教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）
7. 発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成
8. 発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫

いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。

【評価方法】

平常点で行う

【授業科目名】 ゼミナール Ⅱ	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 2年前期 ・ 2年後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白梅が存在する小平市周辺地域に焦点を当て、こどもたち、障害児・者、高齢者など、住民の生活実態がどうなっているか、そこから派生する生活・福祉ニーズを学び、生活援助の視点、援助実践の方法を考察します。 2. その際、96年度ゼミ学生の研究してきた到達点を学び、継承します。 3. ノーマライゼーションの理念を学び、その観点から福祉サービスを検証します。 4. ゼミ学生が居住している自治体に対し目を向け、同じく検証します。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。</p>	
<p>【授業計画】</p> <p>このゼミでは、授業目標に沿って、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを学んでいきたいと思えます。</p> <p>前期では、1年次での学びを継続し、高齢者や障害者、子どもたちの生活実態を学ぶとともに、北欧の福祉を形づくる上で大きな功績のあったデンマークの故ニルス・エリク・バンク-ミケルセンによるノーマライゼーションの理念を追求します。同時に、96年度ゼミⅡ学生の報告書を学び、今年度のグループ研究テーマについて検討します。</p> <p>後期には、グループ研究を進めると共に、平行してゼミ学生が居住している自治体の福祉サービスの状況にも目を向け、ゼミとしてのまとめと、各人のまとめレポートの作成に入ります。</p> <p>学外研修は、“住民の生命を守った村 岩手県沢内村”から学びます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、卒業レポートの作成状況により評価します。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木佐喜子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>より良い乳児保育を求めて ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>I. 乳児保育実践の検討</p> <p>II. 乳児保育をめぐる問題の学習と検討</p> <p>の2つの柱のもとに、前半は乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げた文献、論文の学習、検討を行う。後半は、各自の研究関心を出し合い、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめている。適時、保育園等の見学を行い、乳児保育実践のあり方や乳児保育をめぐる問題についての理解を深める。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 ゼミナール II	【担当者】 関谷栄子
【開講期】 2年 前後期	
<p>【授業目標】</p> <p>各自の福祉的課題、問題意識にそって、小集団で課題を設定し、実践の場で体験を深める。体験をもとに討議を深めレポートにまとめる。ゼミナール発表会で発表する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール期間中に紹介する。 ・各自で探し紹介する 	
授 業 計 画	
<p>4月 各自のゼミナール課題を確認検討する。</p> <p>5月 実践事例を決定し実践計画を立てる。フィールドワークを行う (障害者、高齢者の施設及び、家庭など) 小グループにて訪問計画を立てる。(写真等の記録など) 教員の助言を得て実施する。 毎回レポートを作成する。</p> <p>9月 白梅祭にて中間発表 (予定)</p> <p>10月 実践を続ける</p> <p>12月 レポートまとめ 小グループごとに論文化する。</p> <p>1月 ゼミナール発表</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、及びフィールドワークへの参加状況</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 高橋まゆみ

【開講期】 2 年 前期・後期

- 【授業目標】
- ① さまざまな発達的つまずきを持つ子どもたちへの理解を考える
－『特別な発達ニーズを持つ子どもたち』の理解－
 - ② 発達につまずきを持つ子どもたちとの遊び実践を創造する
 - ③ 生涯発達の視点にたって現代社会に生きる子どもたちへの援助を考える

【テキスト・参考書】

テキスト：ゼミ時間に適宜、指定する

授 業 計 画

テーマ：

特別な発達ニーズをもつ子どもたちへのよりよい援助を考える
－発達につまずきのある子どもたちとの
「あそびの会」実践を通して－

1. 現代社会に生きる子どもたちの抱える発達ニーズは、障害を持つ子どもたちだけの問題ではない。広く人間理解の視点から、子どもたちの抱える発達ニーズをとらえることの意義と実際について学習する。
；文献研究を中心に進める
2. 発達ニーズを持つ子どもたちと親との遊び実践を通して、問題の所在と保育者としての援助の実際とあり方について、学習する。
前期を中心に：
 - ① 障害児通園施設に見学・実習を行い、保育実践を知る。
 - ② 見学実習をふまえて、各グループ毎に、「遊び」を作り実践する。
 - ③ 実際に、発達につまずきのある子どもたちへのあそびを実践する。
3. 上記の遊び実践を通して、保育者の抱える実践的問題について深める。
後期を中心に：
 - ① 子ども1人ひとりの発達ニーズをとらえることとは。
 - ② 子ども1人ひとりにあつた発達援助を創造することとは。
 - ③ 子どもと親たち家族が、社会の中で生きていくこととその支援とは。
 - ④ 生涯発達の視点から考える、現代の子どもたちへの発達支援とは。
 - ⑤ 学生各自が見いだした研究テーマにそつて、論議、研究を進める。

【評価方法】

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当者】	民秋 言
【開講期】 2年 前期 後期			
【授業目標】 保育者に求められている基本的資質の一つとして主体性・自主性があげられる。これは必要とされるばかりか、いま、もっとも欠けているものでもある。したがって、ゼミナールでは、「自ら考える」ことを第一の課題とする。「自ら考える」ためには自らが考えるための「資料」を収集しなければならない。この作業をもっとも身近かな題材「らーめん」に求める。			
【テキスト・参考書】 東海林さだお 『らーめん大好き』 朝日新聞社 民秋 言編著 『幼稚園・保育園での研究の進め方と実例』 萌文書林			
授 業 計 画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 食文化としての「らーめん」 — 日本社会のなかに食文化として「らーめん」がどう定着しているか、文献（テキストなど）を参考にしながら、理論的整理をする（文化論として「らーめん」把握）。 2. 「らーめん」を題材として各自のテーマ設定 — 「らーめん」という大きなテーマのもと、ゼミナールメンバーが各自のテーマを設定する。このテーマ設定が「らーめん」解析の切り口となる。 3. テーマ設定の論的根拠の明示 — どうして、そのテーマを自分のテーマとするのか、その理由を明らかにする。 4. テーマ解明のための方法論の模索 — 自らきめたテーマの課題を明らかにするため、どのような方法があるかをテキストにより模索する。 5. 実態調査あるいは参考的観察さらには文献研究の実施 — 各自のテーマの解明のため、自らできめた方法（調査、観察、文献講読その他）でデータ（資料）収集にあたる。 6. 収集データ（資料）の整理・分析 — 各自で収集したデータ（資料）を自らの視点で整理、分析し、自らの考えを導き出す。 7. レポートとしてのまとめ — ① 研究成果はレポートとして各自でまとめる。 ② ゼミナールは個人研究であると共に共同研究の場でもあり、したがって、各自のテーマを合わせ「らーめん」考としてまとめる。（その成果はゼミ発表会で発表する）。 			
【評価方法】 ゼミナールメンバー各員が、それぞれレポートを提出する。			

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>大きくは『子どもの造形と遊び』について、協同で研究する。共通の具体的なテーマと目的にそって各自が主体的に問題意識を持ち、協同しながら研究をしていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に使用しない</p>	
授 業 計 画	
<p>特に「保育とデザイン」というアプローチで研究をすすめていき、「モノのデザイン」と「コトのデザイン」を考え、さらに「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを、保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていく。研究の具体的なテーマ・目的・方法については、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、調整して、初期の段階で決定していく。</p> <p>活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールと、こちらのスケジュールとを調整しながら行なっていく。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価する）</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 村田 務
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育における健康問題について把握するとともに、解決するための効果的な方法について、文献講読や質問紙調査を通して理解する。 2 子どもの健康を守り育てるための研究方法について身につける。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 学術誌：小児保健研究、学校保健研究、日本公衆衛生雑誌、からだの科学等 辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年</p>	
授 業 計 画	
<p>「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。</p> <p>まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題を明らかにしたり、解決するための方法について、研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったこと、疑問に思ったことについて、質問紙調査や実験・実習を通して明らかにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策について考察・検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、今日の健康問題を捉える：個人レポート 2、健康学研究の方法を知る：研究論文の検討 3、ゼミ研究の共通テーマを決める 〔過去のゼミテーマ〕 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のアトピー性皮膚炎 ・保育者のエイズへの意識と対応 ・保育者のストレス状態とその背景 ・保育科学生の月経痛の状況とその背景 ・タバコ行動の背景とその害 4、テーマに関する文献研究をする 5、質問紙調査、実験・実習をする 6、研究の成果をまとめる 7、研究の成果を発表する 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（レポート、意欲など）</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 八木 絃一郎
【開講期】 年	
<p>【授業目標】</p> <p>このゼミナールは、保育者になろうとする学生自身と子どもの表現を豊かに育てることを考察するために、方法として造形的工作を前面にだした人形劇活動を通して研究する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>「想像力の発達」内田伸子／サイエンス社</p>	
授 業 計 画	
<p>■前期</p> <p>(1年間を通して、分析資料用としてゼミ活動の記録、定期的アンケート収集する)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人形劇活動に関する基礎知識の修得 上演見学 先行上演の考察 2. 上演のための制作活動 材料研究 3. 上演 ① 近隣の幼稚園児対象 <p>■後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 再度人形劇上演を目指して考察・制作 5. 上演 ② 近隣の幼稚園：保育園児対象（対象拡大） 6. 上演結果及び表現記録の分析をする。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>地域における生活問題を考える中で、現代社会における社会福祉のあり方について考察する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>人々が実際に生活している地域の中で、どのような問題が起こっているのか、また誰がどのような立場で、どのような方法・技術をもって援助を行っているかについて具体的にその現状と課題を考察する。</p> <p>そのなかで、各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションを通してお互いに学び合う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点による。</p>	

【授業科目名】 ゼミナールⅡ

【担当者】 吉川研二

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

自然界には模範解答のない問題がたくさんある。自然の事物や現象に関心を持ち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。

【テキスト・参考書】

『小さな自然観察』・『いのち感じるあそび事典』ほか
個々人のゼミテーマに応じて種々の資料を使用する。
基本は“Study Nature Not Books”

授 業 計 画

自然の事象にかかわる観察や実験研究、あるいは自然教育・環境教育に関係する調査や活動をする。

共同テーマは『水辺のビオトープを作る』。

個人の研究テーマを決め調査研究を行う。

学内の講義のほか、テーマに対応して複数の野外演習を実施する。

〔1997年度ゼミ日程〕

①	4. 8	テーマ決定	⑫	9. 30	中間報告書提出(1)
②	15	研究計画書作成	⑬	10. 7	(2)
③	22	研究方法の検討	⑭	14	参考資料など収集
④	5. 6	調査研究開始	⑮	21	
⑤	13		⑯	28	
⑥	6. 10			11. 1	白梅祭
⑦	17			2	”
⑧	24		⑰	18	
⑨	7. 1		⑱	25	研究発表(1)
⑩	8	経過報告(1)	⑲	12. 2	(2)
⑪	15	(2)	⑳	9	(3)
	31	学外研修	㉑	16	
	8. 1	”	㉒	1. 13	研究報告書
	2	”	㉓	20	
	3	”		26	ゼミ発表(口頭/ポスター発表)
	4	”		27	”

【評価方法】

平常点+レポート

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 2年 前後期	
<p>【授業目標】</p> <p>幼児の身体表現やリズムカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得等により理解を深め、さらに、子どもと共に動き、楽しめる保育者になることをめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」 舞踊学第2号, 舞踊学会 板野平 「みんなでやろうリトミック」 ひかりの国株式会社 若松美恵子 「保育の中の運動あそび」 萌文書林</p>	
授 業 計 画	
<p>2年前期は1年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 先行研究の精読 ② 研究テーマ、方法の決定及び研究の推進 ③ 学生自身の選んだテーマで身体表現活動 ④ 手あそび、フォークダンス、リトミックの模擬指導 <p>2年後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 身体表現（ダンス）を文化祭で発表する ② 幼児の身体表現やリズムカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する <p>過去の主な研究テーマ</p> <p>4歳児、5歳児の身体表現の指導 幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミナールの全ての活動を通して評価する。</p>	

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】加宮 葵・若松美恵子他
【開講期】 2年前期・2年後期	
<p>【授業目標】</p> <p>3週間の実習で、幼稚園教育に参加し、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 《幼稚園保育園実習の指導計画案はこうして立てよう》 萌文書林</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>2年生の実習は「参加・指導実習」の段階の実習である。 この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。</p> <p>(2年次) 参加・指導実習のテーマ</p> <p>1 週目・保育計画の流れと関係させて指導を理解する ・子どもの遊び場を主に観察する</p> <p>2 週目・指導に部分参加(指導計画案の作成) ・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する</p> <p>3 週目・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導</p> <p>特に「指導計画」を立案しなければならないので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。</p>	
【評価方法】	

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか
【開講期】 2 年 前期・後期	
【授業目標】 事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。</p> <p>《実習前》</p> <p>I. 講義 「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「保育所実習Ⅱ」の目標と内容 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもになじみ、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。 2) 保育者の指導内容・方法について学ぶ。 3) 指導計画案を作成して指導実習を行う。 2. 指導案・指導法 <ul style="list-style-type: none"> 指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。 幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。 乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」・「小児栄養実習」などで扱う。 3. 実習日誌の書き方 II. 講義 保育における子どもの遊びと指導計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 3歳以上児の遊び指導の方法 2. 3歳未満児の遊び指導の方法 III. 講義 保育所における遊び指導の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の設定 2. 年齢別の遊びの実際 IV. 実習日誌の提出・点検・指導 <p>実 習 9月16日（火）～9月27日（土） 10日間</p> <p>《実習後》</p> <p>V. 実習を振り返って（反省会） 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。</p> <p>VI. 実習日誌の提出・点検・指導 個別面接</p>	
【評価方法】	平常点

【授業科目名】 保育所実習Ⅱ

【担当者】 吉川研二

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】

1年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携
参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど

授 業 計 画

2年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。

「保育所実習Ⅱ」は1年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。今年度は9月16日（火）から9月27日（金）の10日間行われる。1年次の「保育所実習Ⅰ」、1・2年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、

- 1) 保育への理解をさらに深める。
- 2) 配属クラスでの指導の実際と方法を学ぶ。
- 3) 実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。

指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。

なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。

【評価方法】

学内オリ（実習指導）への出席／受講・実習日誌の記録
実習中の出欠席・学内反省会などを総合して評価

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅰ）	【担当者】小松 歩・山口尚子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での保育実習は、保育資格取得のための必須科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』『実習日誌』必須 参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保育資格取得の必須科目であるというだけでなく、保育者をめざす諸君の人間観、児童観、児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保育をめざす者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている（8月中旬10日間）。今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>《事前指導》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション 養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次のような課題を課す。 ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的な注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。 <p>《実習期間》 （11/4～14：標準10日間 施設により期間が前後することがある）</p> <p>《事後指導》 反省会 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】 平常点</p>	

【授業科目名】 実習指導（施設実習Ⅱ）	【担当者】小松 歩・山口尚子
【開講期】 2年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での養育についてさらに深く学びたい者のために、選択必修科目の実習として用意されている。施設実習Ⅰを踏まえ、養護に関する基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について、さらに深く学ぶ。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>『実習ガイドブック』『実習日誌』必須 参考書：授業のなかで紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>施設実習Ⅱは、基本的には施設保母としての就職を希望する者のために開講されている。実習の意義・方法は施設実習Ⅰと変わるところはないが、施設実習Ⅰで行なった種類以外の児童福祉施設で実習することになる。施設実習Ⅰ・Ⅱの両者で、養護系と障害系（収容または通園）の2種類の実習が望ましい。実習時期は、2年次の8月の間に随時実施する。希望者は担当教員に早めに相談されたい。</p> <p>今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。</p> <p>《事前指導》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合オリエンテーション 養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。 また、次のような課題を課す。 ①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。 ②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。 ③自らの実習課題と抱負を明らかにする。 2. 制度オリエンテーション 障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。 3. 処遇オリエンテーション 施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。 <p>《実習期間》 （8/18～28：標準10日間 施設により期間が前後することがある）</p> <p>《事後指導》 反省会 各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。</p>	
<p>【評価方法】 平常点</p>	

学籍番号・

氏 名・

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619